



同窓会誌

第9号

沼津工業高等専門学校同窓会

昭和55年

目 次

- 偶 感樋口 泉 校長 2
- 同窓会の役割仁科和晴 会長 4
- 事務長からのお知らせ 6
- 定年退官祝賀会
退官教官のたより岡田先生、大沼先生..... 7
- 職場だより
東京電気、ヤマハ発動機、三菱電機、
小糸製作所、住友化学..... 10
- 同窓会誌によせて 14
- 今回のテーマ 自分の仕事について 22
- 高専大会報告 27
- 慶弔報告 29
- 編集後記 表紙 3

偶 感

名誉会長 樋 口 泉

10年ほど前までは、日本の近代化ということは、欧米化であろうと思っていた人が少なくはなかったように思う。自からの普遍的な（すなわち世界に普及できた）文化創造の歴史を持っていなかったし、民族文化の中にある普遍的価値に対する自覚も少なかったためであろうか。

江戸時代までは主として中国の思想・文化を導入し、もっぱら中国文化に理想像を見出した。中国が元や清のように外国人に支配された時代には、本邦が真の中国ではないかと主張する学者があったほどである。明治時代以降は欧米文化に圧倒されて、国の独立を守るためにも、西欧の科学技術産業を導入して、民生の向上をはかること、すなわち富国強兵は時代のスローガンにさえなっていた。敗戦後は米国の占領政策により、米国化の傾向が特に強かったように思う。軍備を禁ぜられて、ひたすら経済の復興・発展に邁進しているうちに、自から自覚しなかったにも拘らず、経済大国といわれはじめ、やがて経済大国の責任を追求される立場になってしまった。我々にも解決しなければならない問題は沢山あるがいわゆる先進諸国を見渡してみると、各国それぞれ困難な国内問題を抱えているし、その打開は必ずしも簡単ではなさそうである。したがっていままでのように、先進国にモデルを見出して、これを導入するということはでき難くなったのであるから、よく言われるようにお互に独自の工夫を競い、協力して新しい人類の未来を開いていかなければならない時代になってきた。

さてわずか30余年の間に、世界中でもっとも反日的言論の多いといわれる国内のマスコミの中で、またそれに便乗したと思われるいわゆる進歩的文化人の論説にも拘らず、したがって多くの国民にとっては全く自覚しないうちに、このような経済的発展が実現した原因は何であろうか。

基本的には評論家、堺屋太一氏が説かれるように、1960年代は石油供給過剰時代で、格安のエネルギーが必要なだけ得られたこと、国内資源が少なかったために世界中から割安の資源を輸入できたことが重要な要因になったであろう。しかしこのような外的条件の似た国は幾つもあったにもかかわらず、ほとんど日本だけが経済発展の優等生になり得たのは、外国にはなかった内的条件があったはずである。これについて最も啓発されたのは山本七平著「日本資本主義の精神」（1979年光文社発行）である。本書では(1)外国人と日本人との勤労観に差のあること、(2)この勤労観は民族的な古いものであるが、江戸時代に意識的構成が行なわれたこと、(3)そして武士階級のみならず、町人・農民にも広く深く浸透したこと、(4)それが欧米文化の導入者・解説者の所論とは関わりなく、現代においても一般人には生きてることを説得的に記述されている。簡単に言えば日本人はよく働いたということになるが、どういう社会構造、精神構造のもとで、よく働くことができたかという分析が極めて周到に行なわれている。

では日本社会の勤労観はどんなもので、どこが外国と変っているか。要約すると外国では労働は好ましいものではないが、生活の資を得るためにやむを得ず働くという人が多いが、我が国では儒教や大乘仏教の影響もあって、働くことが宗教的实践であったり、そこまで自覚しなくとも個人にとって生きがいであるという人が多いということである。もちろんどんな国にも勤勉な人、怠惰な人のいる

ことは自明なことであるが、社会の規範がどう作用し、現実に国民がそれにどう対応しているかという問題として考えると妥当な立言のように思われる。

昨年ある英国人が「日本人は仕事中毒だ」と批難したことがマスコミに広くとり上げられたが、民族的なこの勤勉という習性は容易には変化しないのではないかと思う。その証拠に現在でも、学生時代にあまり勤勉とは思えない卒業生でも、社会に出ると一流の働き手になって、職場の信頼を蒐めている例が極めて多いし、「働くことが何故悪い」と反撥を感ずる老人・中年も少くないからである。

しかしこのような批難は、明治から大正時代にかけて米国で行なわれた日本人移民禁止法成立の原因と等しく、いずれも日本人の勤勉さが白人の職を奪う結果になったことに基づいている。国民の勤労意欲が減退すれば、国もまた衰退することは自然の理である。これからの日本は世界の一構成員として発展していかなければならないのであるから、我々も「おつきあい上」働くことをセーブしようというのは、これらの批判をかわす真の道ではあるまい。ただこの30余年を振り返ると全国的風潮は生産活動に主力を注いでいたように思われるが、これからはもっと広く文化全般の向上に力をつくし、人類の発展に寄与するよう、我々の勤労意欲を活用すべきなのではあるまいか。

(1980. 8. 1. 記)

同窓会の役割

会長 仁科和晴

会長を、行うことになって同窓会の役割とは何か考えてみた。どのような会でもそれが存在するという事は、存在意義のようなものがあると思う。他にもあるから、うちも作るというのでは、会員のメリットがない。会員に何のメリットもない会は存在価値がないとは思わないが、それでも社会に対してとか母校に対して何かをもたらすことが必要である。何の意味もない会ではいけないし又わずかしかな存在意味がないというのも会員としてはつまらないと思うのである。そのような会はなくすか、又はどのようにしたら大きな存在意味を持てるか考え実行した方がよい。

私もかつて、同窓会に対して非常に非協力的な考えをもっていった。同窓会の活動を行ってもメリットがなく、会員もほとんどが無関心で理事又は三役も大変なだけだと考えていた。

しかし会長になって思うことは、同窓会はいろいろなメリットを会員にもたらす可能性があるということである。活発に活動する必要はないが、長期に亘ってわずかづつでも会員及び、母校の先生や現役に何らかのメリットをもたらすことができるようにしたいものである。そこでどんなメリットがあるか改めて考えてみた。

1. 母校に対する寄付

これはスポーツに熱心な私立学校や歴史のある学校ではよく行なわれているが、会員数も少くOBの年令も若い現状では経済的にも発展途上にあるだけに多くを期待できない。

2. 現役の後輩へのアドバイス

現役へ実社会や職場の状況を知らせ各自の進路の参考としてもらう。

OBが自分の会社の内容を伝えることにより現役は自分はどういう方向を目指したらよいかということのヒントを得、又その結果により職業の選び方がその人に、マッチしたものになり、その現役が社会に出てより活躍する原因を作る。

又、授業の課目がどういう形で実社会で生かされるかというようなことも先輩が語れば得るところが多いと思う。つまり教育というものもフィードバックが必要だと思ふのである。そして現役が何故学ぶのかのヒントとなる。このようにして母校から多くの社会に貢献する人を出すということが学校の価値だと思ふ。よい学校というのは学生がいかに正しい夢とか目標を持っているか、又卒業生がいかに社会に貢献しているかである。母校から種々の偉人を出した（金持とか有名人ということではなく偉人）を出したという実績は現役を勇気づけると思ふ。この意味ではまだ若い我々OBも努力したいものである。

最近の企業は減量経営の結果OBも非常に忙しいことと思ふますが、1年に1日でも、2年に1日でも現役へのアドバイスを考えてください。

3. 同窓会を通じてより多くの友を得、相互の親睦を深める。

いささか私の偏見もあるかもしれないが、人間が生きてゆく上で何が楽しいかというそれは人と人とのかかわり合いではないかと思ふ。それは人を大いに喜ばせるエネルギーがあるだけに逆に作用す

ると悲しみの原因となる。多くの人と、互の喜びと苦しみを語りながら友達になるということはいうまでもなく非常に価値あることである。自分の会社以外の人との交流を多くするのに同窓会も利用してもらえればと思ふ。以前NHKの人生読本か何かで出た人が「あなたは何の面白みもないアリゾナの砂漠へ何のために行くのですか」と問われて、「友達がいるのです」と答えた。「友達がいる」何とすばらしいことか、という下りだけをなぜかよく覚えている。同窓会は会員のほとんどが一見名ばかりの組織かもしれないが、種々の産業分野に広がる、多くの会員がいるこの会に注目し役立てたいと思ふます。

つぎに現状での同窓会の活動としては、名簿の発行、同窓会誌発行、総会の開催等ですが、これらを三役並びに理事で行っています。理事は母校の近くに居るOBに依頼していますが、最近ほどの会社も忙しく、実質的には特に協力的な理事によって活動が支えられている。忙しい中、同窓会の仕事は手当が出るわけでもなく、出席を強制する力はもちろん会長にはなく皆の自発的な支援によっている。理事の中には全く来ない人もいるが、たまに顔を出すだけでよいから都合をつけて下さい。又新たに理事をお願いする場合がありますが、理事になったら大変と考えず、どうか気軽に引き受けて下さい。

同窓会も将来は各支部ができることと思ふますが、支部の活動も本部が支部を作るのではなく各地域のOBの交流の中から生まれてくるようでないに継続し発展することができません。各地域のOBも仕事等の合間に支部作りの事を考えて下さい。

最後に今回の会誌のテーマは“自分の仕事について”ですが多くの方に書いていただきましてありがとうございました。このような原稿が現役のためにも参考となることを期待しています。

事務長からのお知らせ

事務長 坂井 徳 尚

同窓会の事務長を引き受けてから早任期の4/5が過ぎようとしています。理事からしばらく離れていたため、理事の方々に引張られてゆく毎日です。以前理事をしていた時と顔ぶれにも変化があり、又多くの人々と顔見知りになれる喜びがそこにはありました。もちろん雑用係でするので同窓会そのものの雑用はたくさんありますが…

本年度は、例年のように理事、顧問教職員の親睦会でその仕事の幕があきました。そんな中より、校長先生の叙勲といううれしいニュースがとびこみ、同窓会にとっても素晴らしいスタートだと思いました。55年度の最重要行事は本誌の発行ということです。56年度には総会、同窓会だよりの発行となります。

そのような予定の中、学校長との懇談中「57年秋頃母校の開校20周年記念行事を総務委員会で実施を決定したが、学校・父兄会・同窓会との三者共催にて実施したらどうか」との提案があり、早速理事会等で話し合った結果実施計画等は準備委員会を設置するのでその委員に入って、そして我々同窓会の分に応じた協力をしていったらよいのではないかとということになりました。具体的には、20年誌等の協力、同窓会独自又は三者共同の記念事業の実施等であると思います。ちょっと小耳にはさんだ話ですが、鈴鹿高専の山岳部のOBが20周年

記念事業の一つとして、ヒマラヤ登山（インドヒマラヤ、ガンゴドリ山群ファティンピトワラ峰6,904 mへの登頂）を実行しているとの話を聞いています。ちょっとユニークな事であろうと思います。我々同窓会でも、何か在学生や他の人々達へのPRにもなり、同窓生達の誇りにもなる記念事業はないでしょうか？ いろいろな学校の記念事業の具体例や良いアイデア等ございましたら、どうぞ同窓会事務局宛に手紙等で知らせて下さい。

又、同じ沼津高専の同窓生として同窓会支部の活動、クラブOB会、クラス会、同期会、会社ごとの高専会、同窓生友人グループ等活動しておりましたら、その活動の内容等写真等を添えて、お知らせ下されば大変有難いと思います。

私は同窓会の総会と会誌やたよりだけが、同窓会の存在価値ではないと思います。同窓生各人が自分の生活の範囲内で同窓会の活動に参加し、そのいくつかのまとめ役として沼津高専の同窓会があると思います。皆様ぜひこの同窓会を互いに利用して、より価値のあるものにしていって下さい。開校20周年の記念事業等が具体的に決まりました節には、諸兄の暖い御協力をお願いする所でございます。どうぞよろしくお願い致します。

昭和55年度・56年度事務計画及び中間報告

4月21日	新旧三役引き継ぎ会	9月2～4日	名簿整理
4月26日	学校長との懇談会	9月25日	拡大理事会
5月11日	新旧三役打合せ	10月	会誌発行
5月15日	三役、理事、顧問新睦会	11月	忘年会
5月28日	第1回理事会（業務計画）	2月	卒業予定者への説明
6月4日	第1回三役打合せ	3月	卒業式
6月18日	第2回理事会	56年度	
6月21日	学校長叙勲祝い	5月	56年度行事計画作成
7月3日	第3回理事会	5月	三役、理事、顧問教職員親睦会
7月5日	第2回三役打合せ	8月	理事親睦球技大会
7月7日	第1回J.Cとの打合せ（会誌）	10月	総会
8月2日	第3回三役打合せ	11月	忘年会
8月10日	理事親睦テニス大会	12月	会だより発行
8月20日	第4回理事会	2月	卒業予定者への説明
8月27日	第5回理事会	3月	卒業式
9月2日	第2回J.Cとの打合せ（会誌）		

定年退官祝賀会



岡田先生を送る

幹事 E 5 小川吉晴 C 2 中村誠一
M 6 坂井徳尚

沼津高専が創設された昭和37年以来、17年にわたり高専数学の礎として御活躍されてきました岡田泰栄教授が、昭和54年の春をもちまして定年退官されました。

先生はいつもニコニコ微笑を絶やさずに、我々エンジニアにとって大切な基礎学科であります数学を非常にわかりやすく講義して下さいました。そして「シャー」「チャチャチャチャ」とチョークの音まで増幅させながら我々を数学の世界に引き込まして下さいました。それも、今はもうなつかしい思い出の一コマとなりました。

昭和54年3月18日（日）1時より沼津軒にて、在学中の我々へのお骨折りと、母校への御尽力に対して少しでも報いたいと、退官祝賀会を開催いたしました。それは、機械工学科、電気工学科、工業化学科と全科揃いました初めての祝賀会でもありました。当日は、皆様お忙しい中、1期生から12期生までバラエティーに富んだメンバーが集まり、一人一人それぞれの近況報告、思い出話や送別の言葉などにより、なごやかで楽しい会を催すことができました。幹事一同心より御礼申し上げます。又当日出席できない為、記念品代を送っていただきました多数の同窓生にも感謝致します。

なお、先生は退官後静岡の自宅にて、のんびりしながらも張り切って常葉学園大学教授として、小中学校の先生の卵の養成に励んでおるとのことです。

最後に、先生がいつまでも健康であり、新しい職場で御活躍されることをお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。皆様どうもありがとうございました。

岡田泰栄先生住所

〒420 静岡市大岩本町5の21

近況だより

岡田 泰 栄

お別れしてから、いつの間にか1年半になります。退任の際には、同窓生の皆様に送別会をやっていただいたり、記念品をいただいたり、たいへんお世話になり有難うございました。古い卒業生の方はもちろんですが、その後の新しい方も、もう各方面に活躍しておられるでしょう。

この4月から新設の常葉学園大学に勤めていますが、老年のことで、授業のあるのは週3日で、6時間（90分、4回）です。同じ静岡市にあっても通勤に約1時間かかり、沼津高専の時のようにベルが鳴ってからかけつけるという訳にはいきませんで、それだけ運動にはなりません。

今年の授業は、数学一般と統計学ですが、いずれも選択科目なので人数が不揃いで、多いクラスは83名、少ないのは9名です。授業内容はきまったものでなく、程度もまちまち（高校での数学履習がまちまち）なので、苦労しますが、それだけに自由性もあり、おもしろさもあります。学生の半数は妙齢の女性で、これも初めての経験です。

国立と私立で、かなり気分の相違も感じます。国立は、親方日の丸という安定した立場でじっとしていればよいという反面、きまりきった体制で不自由な点もありますが、私立は、死ぬも生きるも勝手にせよと不安です

が、かなりの独創性も生かされましよう。常葉学園として初めての大学というので、経営者も、教職員も、学生も一丸となって、新しい歴史をわれわれの手で作ろうと張り切っています。同じスタートで皆が出発したということはよいもので、連帯感をもって初一念を貫きたいと全力投球をしています。

ここは、静岡市と清水市の境界線上で静かな山麓にある十階建の建物で、注意してみれば高速道路からよくわかります。ちょっとした研究室も与えられていますので、お通りの際はお立寄りください。なつかしい皆さまの成長していくお姿を見たいと思います。

「大沼先生を囲む会」開かる

一般科の大沼先生が今年3月末日をもって、15年余勤められた母校を退職されました。先生の永年の労に感謝すべく、「大沼先生を囲む会」を6月29日の日曜日の午後、沼津の「チャンコ江戸沢」で開催しました。

あまり大袈裟にしないで欲しいとの先生自身の御希望もありましたので、沼津近辺の、連絡のとりやすい卒業生にだけ連絡しましたが、それでも出席者17名、記念品代の協力者55名にも及ぶ盛会になりました。

当日は出席者が、比較的、同窓会を通して顔なじみの者が多かった為、又、座敷でチャンコ鍋をつつきながらと言う雰囲気も手伝って、最初から和気藹々としたリラックスムードで始まりました。

この雰囲気は飲む量も進み、途中からは、主役が誰だったか迷うほどに、にぎやかな男も出現し、およそこの種の会には今まで見られなかったにぎやかさになりました。



この熱気に地下のナマズも目を覚まさせられて怒ったのか部屋をグラグラと揺らしてくれましたが、酔い過ぎの為でなかった事に安心した出席者達は、すぐに元のにぎやかさに戻りました。

出席者が順番に行った自己紹介は愉快的な横やりばかり

入ってずいぶん時間がかかりました。一通り終わったところで幹事の鈴木君より先生に記念品が贈呈されました。

これはこの日の為か？ 中国から運ばれてきた、先生のイメージにぴったりの、桶から彫り出された仙人風人物像で「寿星」と命名されたものでした。

最後にこの名物のもちとうどんを食べて飲み気も食い気も十分満足した出席者一同は大沼先生の今後の新しい人生の再出発を祝して全員で万歳三唱と校歌を歌い、盛会のうちに会を閉じました。

M1 伊達忠昭、白井一夫 E1 鈴木恒男

同窓会の発展を祈って

大沼栄穂

このたびの沼津高専離任に際しましては、同窓会より多大のご餞別を頂戴し、厚く御礼申し上げます。

また、沼津近在に在住する有志の方々には、心のこもった送別の席を設けて頂き、その上結構な記念の品をお贈り頂き、感謝の言葉を知りません。当日のスナップアルバムが届けられましたが、それは私にとって終生心暖まる思い出を呼び起こすことでしょう。

顧みますと、私も沼津高専にお世話になってから15年を経過しました。その間、土井・樋口両校長先生を始め多くの諸先生や校友諸君にお世話になりました。同窓会の諸君には特に寮生の指導について御協力頂きました。歴代の会長さんには、夜分わざわざ寮生のための講話の講師としてご足労願いましたことを記憶しています。沼津高専の同窓会活動は極めて活発で他高専の羨望の的となっております。役員の方の定期的な会合が夜遅くまで繰返され、総会その他行事の準備や会誌の編集がなされております。高専という学校が比較的少数精鋭主義的構成で良い意味での家庭的雰囲気があるからだと思えますが、特に沼津高専の場合は、先輩が後輩の面倒を良く見る、という美風があるからではないかと思っています。同窓会のより一層のご発展を祈ってやみません。

さて、お陰様で、私も第二の人生に向かって一歩踏み出したところです。私の新しい任地は東京神田にあり、通勤にやや遠いのが難であります。出講日も限られており、住み慣れた沼津の地に依然居をトしています。今までが恵まれすぎているので、多少の苦労は止むを得ません。

最後に、この紙面を借り、少しコマーシャルを試みさせていただきます。私事になりますが最近教師生活30年の記念にと小著公刊しましたところ、日本経済新聞が下記のような書評を掲載してくれました。あえて報告させて頂

きます。形式はともかくとして、内容のほとんどが沼津高専生諸君との対話の成果で、その意味では、やはりどうしても真先に同窓生諸君の批判を仰がねばならないところでは。

「自己への問いとしての哲学」

大沼栄穂著

本書は高校の「倫理」や大学教養課程の「哲学」の趣旨に沿って、若い人々のために書かれたもの。

「哲学とは何か？」という正面切った概説書ではなく

「哲学を欠いた人生はどうなるか」というからめ手からの入門書である。

著者は「哲学とは“なんじ自身を知れ”ということだが、それは人間が自由であることの真の意味を知る」という見解を採る。真理探求をよろこびとする力強い人生態度の確立がないと、人も社会も危機に陥るとの主張を具体例を挙げて説く。「幸福とは不幸の回避ではなくむしろそれを克服することであり、教育とは全人的自己教育である」とも教える。

本書を読むと、哲学をする人間こそ、次の日本を背負う人材、そんな気になってくる。

(北樹出版刊 1,800円)

—— 書評原文のまま ——

職 場 だ よ り

東京電気株式会社

E1 漆 畑 豊

全国、沼津高専卒業生の皆様こんにちは。低成長時代・不確実性の時代といわれる80年代をむかえ、皆様も日夜頑張っている事と思います。又、日頃は「同窓会」には大変ごぶさたしており、申し分なく思っています。

さて、我、東京電気は、この80年代の幕開けに創立30年を迎え、次の飛躍へのステップを踏み出しました。昭和25年東京芝浦電気(株)から独立、東芝グループの一員として重要な地位を占めています。又、東京電気も機器・照明・家電の3部門を主力に、製造・販売・サービスの各分野にわたる総計40社に及ぶファミリーをもち、強力なチームワークを発揮し、TECファミリーのきずなの固さは定評のあるところでは。

会社の概要

商 号……東京電気株式会社
資 本 金……41億 (55年6月)
従 業 員 数……4,400名 (55年6月)
本 社……東京
工 場……東京(目黒)、秦野、三島、大仁
支店・営業所……全国90ヶ所

ここで卒業生の活躍している各工場の案内を致します
三島工場……三島市南町6-78 0559 (71) 7111

東洋一を誇るJIS指定の一貫した照明器具工場として誕生。その後拡張を続け、現在では、照明器具はもとより電子機器の製造も担当し、総合工場に成長しています。

ここでは、E1の漆畑(記)、M9の原康三君が活躍しております。

大仁工場……田方郡大仁町大仁 570 0558 (76) 3111
国産事務器発祥の地であり、現在も業界のトップに立ち、電子レジスターをはじめとする各種事務用機器を製造。ここでは、E4の小野薫君、E8の飯田雄三君が活躍しております。

東京工場……小型モータを応用した家庭電機を担当、国産初のミキサーを生産するなど、常に最新技術の吸収に努め、クリーナ・ジュース・ミキサー等を製造。

秦野工場……事務器及び家庭電機の小型モータの専門工場

おわりに、低成長時代・不確実性の時代といわれるこの80年代。いよいよ我々技術屋の實力を発揮する場がきました。皆様、各々の持ち場で「沼津高専卒」の力を充分出し切って、飛躍の第一歩を踏み出すとともに、「同窓会」の今後の発展を祈念いたします。

ヤマハ発動機近況報告

M2 入 手 和 秀

M2の皆様、御無沙汰致しております。桔川、大久保共々、ヤマハの為、国家の為に貢献して居りますので御安心下さい。

前置きはこの程度にして、近況報告に入ります。

当社は本年7月をもって、創立25周年を迎えた訳であるが、経営の柱である2輪車のみならず、小生の携っている特機商品グループも将来への飛躍を目指すべき、一つの節とも言ふべき年となりました。

退社も20時が定時と言った具合で、肉体面での耐久性も大いに要求されています。皆様方も同様かと思いますが頑張らねば。次に卒業生の状況を簡単に紹介致します。

申し訳ないのですが、後輩の諸君に対し、殆んど面識が無いので、せいぜい5期当りまでの範囲にて勘弁させて貰います。

まず1期ですが、余りにも猛烈型の為、3名中、僅か杉浦先輩のみ残っています。(鍋田さんは設計事務所を開き、長谷川さんは(株)H・K・Sの社長となって、活躍中です)

杉浦先輩は当社製品の要めの1つである点火装置を製造している森山工業に監督者として出向し、経営基盤の

拡大に、日夜努力をして居ります。

次に2期ですが、こちらは1期に比し、おとなしいせいか、3名全部残って居ります。

桔川はヤマハ車体工業の生産部へ5~6年前より出向し、プレス、溶接部門の業務に携っています。家庭では1男1女の良きオヤジになっています。

大久保も生技部に属し、入社以来一貫して、鍛造技術の開発に携っています。

小生の扱っている商品も、鍛造部品を多々使用している為、大変お世話になっています。家庭では1女のオヤジになって増々、頑張っています。

小生は入社以来、開発面に携ってはいるものの、扱った商品が次々と変わり、現在は汎用エンジンに落着いて居ります。

応用商品の開発で毎日アクセク働いています。又、神のいたずらか、昌和製作所技術部に所属していた久保田が、3年前より小生の課に助働扱いで来ています。2サイクルエンジンのベテラン設計者として活躍しています。家庭は1男1女のオヤジとなっています。

3期は北川1名のみ。彼も入社以来、トヨタ自工向けエンジンの開発一筋であり、社会的要求の強い排ガス浄化をなし遂げ、現在は低燃費化に励んでいます。私生活面では山口百恵より数段美しい、小学校の先生を嫁さんに貰い、亭主閑白振りを発揮し、今年中には5つ子をもうけようと健闘しています。

4期は研究部にて、社内技術電算のレベルUPに、日夜心労の絶えない杉山がいます。

彼は寮生活時代の友、3期北川が結婚するや、それ遅れまじと、自身もゴールイン。その影響か、最近とみに落着いてきています。6期は研究部にて、2輪の操安性の研究に励んでいる榊原がいます。

彼は3、4期の先輩よりも数年早く所帯を持ち、1男1女のオヤジになっています。

小生の行動範囲はこの程度の為、他の職場の後輩紹介は別途致したく、本日は、この辺で筆を置きます。あしからず。

三菱電機 (静岡)

M2 三 石 保 雄

長い間御無沙汰しておりますが、皆様お元気でしょうか。早いもので沼津の地を離れてから早や12年もの歳月が流れたってしまいました。まだまだ若いと思っているうちに、体力的にはあまり無理がきかなくなってしまい、バレー部当時のジャンプも半分近くまで落ちてしま

ったようです。しかし精神的にはますます円熟の中年になってきました。見る事、聞く事全て興味深く受け取れます。今では小学一年と三才の息子を従えて、海にプールにセミ取りにとうれい夏休みを送っています。

さて私の入社しました三菱電機は総合電機メーカーとしての重電、電子、機器、商品(家電)と広範囲に渡る製品を約5万人の従業員で、23の製作所と6つの研究所から国内はもとより世界各国に送り出しています。しかし今まではどちらかと言えば、そのイメージを世の中にあまり強く印象付けていないせいか、一般人にはなじみが薄かったように思えます。しかし52年のあの「フロン乾燥機」の発売以来「よみがえる獅子」とか「変身企業」とか言われて、マスコミ界を大いに賑わし、一挙にその存在と新体質面を顕わにしました。家電製品に関して言えば、確かにこの「フロン乾燥機」以来、市場での三菱製品を見る眼が変ってきましたし、どこの製作所でもこれに負けるものかとばかり、更に良いもの、売れるものをという姿勢がはっきりと出てきました。

その家電製品の製作所の一つである静岡製作所に私は勤めておりますが、高専生は全部で約35名程で、そのうち沼津は14人がいます。静岡製作所では家庭用ルームエアコン、業務用パッケージエアコン、冷蔵庫、密閉型圧縮機等を生産しており、三菱電機内でも稼ぎ頭の製作所となっています。

私は現在、ルームエアコンの設計業務に携わっていますが、残業残業の生活の中、他社に勝つためとの信念のみで仲間と共に頑張っています。その仲間とは、M3の鷲巣博章君、E3の杉井勉君、M6の飯田次男です。欽ちゃんでおなじみの「うす形霧が峰」を作っているのです。

冷蔵庫も好調です。あの「大きく使えるフレッシュみどり」です。この製造部にはE3の小沢成彰君、M4の内藤勲君、E4の渡辺文久君、M8の伊藤千明君がいます。

パッケージエアコンの製造部には、M2の駒井隆雄君、M7の谷和昌君が頑張っています。600Wから20馬力までの大形で、「ミスタースリム」が有名です。

圧縮機製造部にはE4の松下一秀君とM5の堀内保信君がいます。ルームエアコン用、冷蔵庫用、パッケージエアコン用と多機種にわたり信頼の高い圧縮機を造っています。

あと、材料技術課にC2の清水克則君がいます。生産技術課にM7の松井隆一君がいます。彼らは各製造部とコネクションをもっているのです。

以上のように、三菱電機の中でも稼ぎ頭の静岡製作所で各部門に活躍している我ら沼津生を紹介しましたが、日頃は各製造部門であまり接触がないため、あいさつ程

度ですましていますが、これからはより綿密な連帯と協調精神で、三菱電機発展のため、そして沼津生の実績と心意気をあげるべく頑張っていきたいと思っています。

そして、これからはTVや新聞、電気店の店頭などで三菱電機の「ルームエアコン」や「冷蔵庫」、「パッケージエアコン」等を眼にしたら我々のことを思い出して下さい。一つ一つの部品が我々の手を通して出来てきているのです。

小糸製作所

M2 金田 友義



小糸製作所清水工場。人はこれをチョイトセイサクシヨシミタレ工場と呼ぶ。本社は東京の高輪、工場は他に榛原にあり現在増設中である。各々に国電、新幹線、東名から看板が目に入る。主要製品は自動車用照明及び電装関係でヘッドランプ、ルーム、リヤコンビランプ等が多い。仁科会長の指名で原稿をかくはめとなった小生は卒業以来かくと言えど頭をかくのが得意中の得意で筆は進みにくい。

小糸における高専卒は14名入社（内1名は大阪高専電気）13名在職中で機械卒10名電気卒3名の内訳である。活躍中の職種は本来この原稿を書くべき長谷川（E2）は生産管理部門でトヨタの悪名高きカンバンを展開して55年5月から航空機照明電装関係の営業としてシアトル出張所所長として家族を引連れて3年程渡米中で日商岩井と組んでロッキード他にビーナツとやらを配っている。大木（M5）八木（M8）滝川（M10）青山（M11

中途退社）大塚（M12）及び私は生産技術部署でプレス及び樹脂金型の設計とやらをやらかしてもらっている。大橋（M8）篠ヶ瀬（M9）は技術部署で製品設計という名の小糸の諸悪の根元を背負っている。広瀬（M13）は生産技術部署で設備機械設計と思いきや機構学で悩んでいる。残1名は大阪くんだりから流れて来たよそ者で生産設備の電気電子回路設計をしており、すこぶる優等生である（強調するが現在大阪高専は大学昇格で母校をもたないので高専会にあえて入れてやっている。）又今年入社した東、山本（M14）横山（静大経由E12）は現場で実習という名の工員扱いの途中で10月に配属予定（現在が忙しいと延びる事も良くある）である。職場における高専生は例年増加の傾向から評判も押し知るすべを知らない事としよう。職位は係長待遇所長1名、係長資格保有者2名他ははまっぴら君で年齢の若さとポストの欠乏以外の何物でもない。仕事内容は世界2位のトヨタの資本参加もあって、すこぶる忙しいの一言につけるがリーチがかからないとやらないのも仕事である。（某市役所の赤いのが工場を見て働きぶりをキチガイ呼ばわしたが表面ヅラのライン作業を支えている裏方こそ高専卒で、そういう私自身良い意味でキチガイ感覚を持たないといついでいけない反面もあり、徹夜はもとより休出3交替さえ経験している。（後述する組合があり基本原則では徹夜はない）しかし仕事を離れた組合活動も盛んで静岡地区同盟の旗頭である小糸労組（八木君はその執行委員の1名である。）は、県議1名、市議1名を有し選挙となると会社ぐるみ選挙と赤に後指さされる程である。クラブ活動も県一部リーグ等で活躍している部及び文化系活動も活発で篠ヶ瀬は茶道部にさえ在席してお茶をにごしている。13名に膨らんだ高専会の活躍の場は社内リーグと一歩ゆずるが土曜休日の早朝ソフトを卒業して草野球ニッサングリーンカップを目指す軟式野球を楽しんでいる。

プライベート面では2児の父親3名、1児の父親1名を含む妻帯者7名（内20才結婚21才父親記録保有者もいる。）と今秋ゴールインする売約済者1名もいる。（尚退職の青山君は、キリスト教布教師となるべく実家かんだうをもとめせず名古屋方面で頑張っていると聞く。）

とりとめもなく書いたがこのへんで得意の頭かきに戻って一歩仕事を離れると気の良い連中ばかりの高専卒であるが飲む程に酔う程に将来は会社の重要ポストを高専卒で占めてやろうと意気をあげる者、金型一筋で会社をおん出されても飯を喰える技術を身につけてやろうという者等気骨者も多い。最後にエピソード及び的外れな比喻は一切本人の了承を得ていないので後輩諸君はこの文面に恐れず小糸の門をたたく事を祈ってまとめとする。

住友化学紹介

C2 近藤 則男

住友化学工業は“21世紀を創る化学”を旨とし、農業、医薬を中心とするファインケミカル部門を新しい軸とし、合成樹脂、工業薬品等々総合化学メーカーとして発展をつづけてます。

7月の始め学校の方より「就職の説明会に来てほしい」との要請がたまたま私にあり、本社人事部に打ち合わせに行った際、我沼津の同窓生の多いことにおどろきました。

ではまず所属する製造所等を紹介すると、ファインケミカルのメイン工場である大阪製造所には、C1の藤田先輩、C4田代君、C5和久田君と私（C2近藤）の4名、そして同じ大阪地区の中央研究所にはC2小林君が勤務しています。その他の製造所には、業務の関係で交流があまりないためか、あまり顔を見ることはないのですが、石油化学を中心とする千葉製作所にはC5大曾根君、M9鈴木君、E9松山君、今年入社のC10杉山君が勤務しています。その他当社よりアルミ部門の独立した、住友アルミニウム製錬（名古屋）にはC7伊藤君がいます。そしてもう一人、静大より入社されたC1竹内

先輩が生物科学研究所（大阪）におられます。以上11名もの沼津の同窓生が住友化学で活躍しています。

先に紹介しました、私の所属する大阪製造所は、染料、加工樹脂、ゴム薬品、医薬原料の生産と研究を行なっていますが、藤田先輩は染料製造工場のスタッフとして、生産管理を業務とされておられ、田代君と私は製品の応用研究、商品化、技術サービスといった研究室に、和久田君は分析という基礎研究の部門に所属しています。この4人のメンバーは、大阪の生活にも慣れ、毎日の通勤ラッシュ、夏の暑さ（今年は涼しいが例年は日本一）等等も克服し、「そんなんあかんでー」などという大阪弁も理解出来る様になり、住友化学を支える手としてガンバっています。他製造所のメンバーも、私達同様活躍していると聞いてます。

住友化学には沼津以外の高専生も数多く、生産活動、研究活動等、仕事の面はもちろん、組合活動、スポーツ活動、寮生活いずれの面でも常に先頭に立って活躍しており、業績発展のための大きな原動力となっています。

職場だよりという事で本来は我社の全同窓生について紹介せねばならないのですが、他製造所の実態をよく理解していないため、今回は名前のみで活躍ぶりは紹介出来なかったのので了承願いたい。

私自身、今後共沼津の卒業生の名前に恥じない様、頑張るつもりです。

同窓会誌に寄せて

沼津高専赴任に際して

事務部長 伊藤重憲



全国に国立の高専は54御座居ます。そして例外なく同窓会は設立されている筈ですが高専制度発足以来18年目という年月の浅さもあって、活発に運営されている同窓会は極めて少い様です。

その原因としては次の様な事が考えられます。

●第1回の卒業生が、30代半ばで、社会的に一番活躍せねばならない時期で同窓会の世話までは手が廻りかねる事。

私は沼津高専赴任前は北海道の釧路の工業高専で事務部長をしていました。その任期中同窓会は設立されているにも拘らず、殆んどその活動状況に接する事は出来ませんでした。釧路高専は沼津高専より3年遅れて設立されていますので、沼津程の活動がないのは当然かも知れませんが、それにしても本校の同窓会は活発です。

何故この様な活動がなされるのか、考えて見ますと次の様な事項が要因である様に思われます。

- 1 元来静岡県自体が非常に教育熱心な所で卒業してもその母校を大事に考える県民性がその要因となっている事。
- 2 本校の卒業生を受け入れている大企業が比較的距離に散在しているので、他の高専に比較すると種々の同窓会関係の会合が開催し易い利点がある事。
- 3 第1回、第2回卒業生に「同窓会キチガイ」が何人か存在して、これ等「キチガイ」が強力な推進力となっている実態がある事。

社会的活動をする場合、同窓会のバックがあるのと無

いのとでは大きな違いとなります。それは良い意味においても悪い意味においても大きな相違となります。或る分野では同窓会関係の関でゴリ押しをする場合もありますが、それはともかく、同窓会は心のふるさとであり同窓会はこの生存競争の激しい社会の中のオアシスです。

同窓会の開催通知を受けて出張・会議その他の公務で出席出来ない場合は別として、何等特別の理由もないのに出席しない場合は何かその本人に問題がある場合が多いのではないのでしょうか。

心のゆとりが無い場合は同窓会等には出席出来ないものです。

経済的にゆとりが無い場合も同窓会にはなかなか出席出来ないものです。

同窓会に出席したからといって実生活に、すぐプラスになる事等全然ありません。仲間意識連帯感を強めるといっても、それだけの話しであって実生活に直接プラスになる事は全くありません。したがって心のゆとり、経済的なゆとりが無ければ、時間的に余裕があってもなかなか出席出来ないものです。

この様な性格の同窓会が沼津高専では活発に運営されているのは心強い事です。

この力強い活発な同窓会に着任早々の事務部長として次の様なお願いが御座居ますので、この点宜しく御配慮下さる様お願いします。

●昭和57年度秋に実施予定の本校20周年記念行事に同窓会は総力を挙げて御協力をして戴きたい事。

形式的には学校同窓会教育後援会の三者共催なのか学校主催で同窓会教育後援会が後援となるのかの問題があるのでしょうか、三者共催であっても、後援であっても、同窓会には相当の働きをして戴かねばならない事には変わりなさそうです。

「お前は20周年の記念行事をするために沼津高専に赴任して来たのだ」と某主事からハッパを掛けられていますので、同窓会の皆様方一人一人の御理解と御協力を心からお願いします。

母校創立20周年記念共催の提唱

顧問 市川良輔

今度の同窓会誌を通じて、全会員諸兄に、是非とも今から知っておいていただきたいことが一つあります。

それは、まだ正式公表の段階ではありませんが、母校沼津高専が、昭和57年の秋を期して、創立20周年記念を実施する予定——というより、実施「しなくてはならない」という意志をすでに確定させたということなのであります。おそらく、学校自体はもちろん同窓会や後援会にも、まさに第一次的な準備に徐々に入っていたかねばということ、近いうちに正式に申入れることになるだろうと思われまふ。というのも、元来、学校の創立記念なるものは、その行事にしても事業にしても、学校単独で実施すべくもなく、また実施出来るとは限らないものでして、何としても、有力な外郭団体や機関の協力や後援を得べく、時機によっては、むしろ「共催(宰)」のかたちをとるのが普通だからであります。いうまでもなく、この場合、最も密接であり親近性のあるのは、同窓会に如くものはありません。(今さら、同窓会に追従しようとしているではありません。学校と機関との関係について、後援会<父兄会>などは、いわば「人質」—失礼—のある間の付き合いですが、それにくらべて同窓会は一生涯の付き合いである、というのが、年来のぼくの持論であることは、知る人ぞ知るところです。)ですから、やがて創立の年度が深くなってくるにつれて、当然、学校自体は「参与」とか「共調」とかという立場にとどまり、同窓会そのものが主宰して母校の創立記念を行うということにもなってゆくものでしょうし、事実、そうした事例も現に各処に多く見られます。然し、沼津高専の場合、(どこの高専でも同じですが、全国高専中で最も充実した同窓会を有するわが沼津高専でさえも)、この年次では未だ「量的? 物的?」に不相応であり、結局、三者共催で行うのが最適であり、また必須なのではないのでしょうか。

実は、20周年記念実施は是非か、あるいはその要否が話題になり始めた当初から、「同窓会はどう思っているだろうか」という意向付度の念慮が、誰からともなく意識されていたようですが、これはきわめて当然の印象だったと思います。それ故にこそ、ぼくなどの心底には、「20周年記念もやれない母校でどうするか!」という同窓会員からの声——もちろん、誰が言ったかわからず、あるいは20年度にはまだ在職するであろうし、第1期からの満年教師の一人となり、さなきだに同窓会顧問

を仰せつかっているぼく自身の声かも知れませんが——それが痛きびしく、然し限りない奮励と悠遠の響きを含んで聞えてきたのです。やはり、同窓会とガッチリ手を組んで、20周年記念を首尾よく成しとげねばならない、これがぼくの現時点のあからさまな心情かも知れません。

ことわって置きますが、20周年記念実施ということは、すべて「学校」が決めることであって、けっして「ぼく」個人のことでありませぬし、同窓会と共催ということも、最終的には同窓会が応諾することです。ぼくは今、同窓会の顧問として、20周年記念ということについての学校の意志をいち早く会誌を通じて諸君に知らせておくことが出来るというに過ぎません。それに加えて、考えてみますと、昭和37年の開校以来20年目にあたる年に何らかの感概を持てるものということになると——その機に在職している(はずの)教官の中で、その開校以来、つまり第1期教官は、野中、渋谷、三ツ井、大橋の諸氏と、斯く申す「やつがれ」との5人のみということになるはずなのです。(予定です)。しかも何の因果か因縁か? この中で年令的に最年長が、その「やつがれ」ということになるわけですね。(事実です)。いやかたがたでも20年の歴史の重み——それを「感慨」と呼ぶことにして——を、何といってもまるまる20年を経て来た「5人の侍」(「侍」であるかどうかは問題外として、一応念のために言ってみると、創設開校時には「11人の侍」であったのが、10周年記念の時には「8人の侍」であり、そして開校記念日が正式に制定された49年には文字通り「7人の侍」となり、来るべき20周年には「5人の侍」となろうとするのです。)こそは、一ばん肌感じていてよい、いや、感じようではないかということ、これを「天与の役得?」の年かさ故に、ぼくは5人の同志に呼びかけるとともに、5人だけに共通の(開校以降×20=沼津高専出身者全員)なる同窓会員に、いささかなりとも知ってもらいたいと思ったのです。

もっと端的に言えば、大体、学校の創立記念などというものは、何よりも、その学校を卒業した者たちのもの、同窓会員のためにあるのではないかという、何かはたられるような気がしてきたのです。「創立記念も出来ないようなのがわれわれの母校なのか!」という声は切実です。切実な激励と督促の声だと思います。今の場合、「やれないなら、俺たちがやってみようぞ」という断案にまで至らしめることは出来ない、兎にも角にもまる20年を経ることになるだろう中の一人としては、少くとも、ぼくは自然に斯う考えざるを得ません。これが、学校は20周年記念を「実施しなければならぬ」という意志を確定した」という、ぼくなりの言い方で、全同窓生にこの誌上でお知らせする——というよりもむしろ、報

告しておきたかった次第なのであります。

あらためて再言します。母校は57年の秋頃に、学校、後援会（旧父兄会）、そして同窓会の三者共催による20周年記念を実施すべく、まさに満2ヶ年前の今から、着々と諸般の準備に出発しようとしています。それについても、正に物心ともに同窓会の力を深く期さざるを得ないのが真情なのであります。

親愛なる沼津高専同窓会員の全諸兄、それぞれが江湖にあって活躍しつつ、そのひとりひとりの熱情と意欲一謂うなれば母校への愛と認識の力を一つに結び、輝かしい歴史の20年なる光彩の頁を、諸兄自身の手でひもとく日を迎えようではありませんか。

臨海寮でのあれこれ

三ッ井東司

昭和37年、55名による仮寄宿舎の千本臨海寮に始まった沼津高専学生寮も、38年には清峰、39年に明峰、40年に秀峰、42年に雄峰、45年には校地を拡張して栄峰と光峰が完成した。その年から1・2年生による低学年全寮制を取り入れ、450名前後の学生による寮生活が営まれるようになった。組織化され寮則も完備した現在と異なり、臨海寮での生活は、今は楽しい思い出として残るものの、当時を振り返るなら、暗闇を手探りで這いずりまわるような不安と危なっかしい思いの中で、創設という意気に感ずる学生と教官の共同生活が行なわれていたと言って良からう。その中で無難なものは、沼津高専十周年記念誌、十年の歩みに乗せたのであるが、それ以外のことで同窓会誌の紙面を汚させていただく。十数年経った今は、悪いことでも時効として取り扱われるであろうから。

その1 入学式の前夜、最も交通の便の悪い隣県から来たY君の母親が、「子供と一緒に泊っていてもいいですか」との質問を受けた。全権を委ねられている私は「結構です」と答えたら喜んで泊った。自分のもとを手放す不安を一夜でも語り合っただけでも解消しようとする母心が伝わってくる。それにしても、たった一畳位のベットによく二人で休めたものと後で思った。

その2 S市から来たYとNの母親が5月某日、校長を訪れた。「寮では勉強できない」という苦情をもって。訳を聞いてみると「今迄（中学時代）は帰宅してすぐ寝て、夜中に起きて勉強したのだが、今は消燈の時間が決められているからそれが出来ない」というのである。馬鹿にしている。一部の者の勝手から全体を変えることは出来ない、そんなことを直接校長にもっていくなんで、

腹が立って仕方がなかったので、消燈時間をより徹底するために開閉器のフェーズを取り去ったまでにはいいが、自分の部屋まで真暗闇で閉口したものだ。

その3 某月某日、部屋の一人が誕生日なのでブドウ酒でお祝いをしていいかという学生の申し出に、当時酒なら一弁、ウィスキーならボトル一本という酒豪の私には、ブドウ酒やビールなんて女・子供の飲み物位にしか考えなかった。「よろしい」と返事してしまった。飲み方を知らない彼等は、飲み口の良いブドウ酒をタラフク飲んだのだろう。ドンチャンさわぎの末、近所からの苦情に平身低頭。

その4 「先生借りたボートが無くなっちゃった」注進に来た学生の話の話を聞くに臨海寮にそなえてあったボートを借りたままではいいが、使ったあと、砂浜へ上げておいたのが無いというのだ。潮が満ちて流されたのか誰かが無断で持ち出してしまったのか分からない。早速関係者と一緒に浜をあちこち探したけれども見つからない。結局事務長に話した所、お目玉の末一部学生負担で弁償ということに相成った。

その5 「先生町でたかられちゃった」伊豆の山奥から来たW君、事情を聞いたら市内で数名に囲まれ、現金をおどし取られたとのこと。市内の某高校の生徒らしい。すぐ取りかえすべく現場に自転車をとばしたけれどもいつまでも現場にウロウロしている馬鹿もいまい。幸いその学校の先生に後輩がいたので警察へとどける一方、その後輩に連絡を取り調べてもらったが、当方被害者の動揺が大きく、学生服の顔写真を見せてもらったが分らずじまい。一人で町をぶらつかないこと。知らない人に声を掛けられても知らん振りをしていることと注意することになった。

その6 「一万円無くなっちゃった」青くなって知らせに来たのは愛知県に近いK町から来たT君、共同生活で一番大切なことはお互い信頼し合うことである。それを根底から覆すのが盗難である。「置き忘れじゃないか本やノートの間を調べる。鞆の底を見る、バックを逆さにして見る……」色々言ったしやっただが見当らない。数日後「あったー」と知らせにきた。ベッドの枠と畳の間に入り込んでいたとのこと。何かの弾みにはまり込んでしまったらしい。出て来て本当に良かった、信用していた同室者を少しでも疑ったことに対して詫言よう伝え、私自身も疑った事実を反省したものだ。

その7 「先生床が抜けちゃった」「先生壁板が破れちゃった」冗談じゃない、黙っていて床が抜けたり壁に穴があく訳がない、二段ベットの上から飛び降りたり、体重をかけて壁にぶつかれば、ベニヤ板が破れない方がおかしい。元々、沼津一甲府の交換生のための海水小屋として利用していた建物なのだから弱いには違いない。

新聞の広告紙や板べらで取りあえずの処置をするよう指示した所床は直したが、壁は隣室への臨時通用口として活用してしまった。

その8 全室暖房完備の現在と違って、当時は管理室（厩は事務官が事務をとり、夜は教官宿直室に早変わりする。便所はあるが風呂はない）に石油ストーブが1ヶだけ。暖を求めてくる学生で冬は大盛況、スルメや餅を焼く臭いと煙りで部屋は充満、談笑は夜遅くまで続く、それでも消燈時間が近づくにつれ、1人去り2人去りして最後は完全に居なくなってしまうのだから、愛すべき奴等なりと思つた。

取りとめないことを書いてしまったかも知れない。学寮は互譲・協力・規律・礼儀・寛容・忍耐・学習・余暇善用・健康安全・清潔整頓を目標とし、人格形成の一助となす教育的な場としなければならないという現在の目的から考えれば、全くのその日暮し、しかも何から何まで試行錯誤の連続であった臨海寮の生活ではあるが、そこにそだった60名すべてが十数年経った今は立派な社会人として、又より良き家庭人として活躍しているのを見・聞きする時に、あの時はあれで良かったんだなーと感ずる昨今である。

“教師冥利” というもの

一般科教官 朝比奈 博

「近いうちに一杯やりませんか?」と、勤め帰りの電車の中で久しぶりに一緒にになり、同じシートに隣り合わせた第1期卒業生・P君からの誘いの声が掛かった。1期生（昭和42年3月卒）といえば、齢（よわい）すでに中壮年の域に達し、まさに働き盛りの世帯持ちである。18年余りも昔になった、あの仮寮舎当時の顔付きそっくりだし、それにお互いの気持だって今も全く変わってない間柄とあってみれば、まるで身内も同然の親近感でいつでも接し得られるというのは、何と有難く、仕合せなことであろうか。——こうした呼びかけだって、何もこの僕がそんな“飲んべー”だ、というわけからでも絶対ないし、実はいつまでも旧情の互いに相変らざることを証しを、そうしたことに求めたのだということぐらひは、まさに“あうんの呼吸”とでもいうべきもの。だからこそ、“待ってました”とばかり、こちらもやにわに相好を崩して、欣然OKを即答したことだった。

かくして、約束の指定日がやってきた。——梅雨模様空はまだハッキリとしないが、さほどの暑さも感じない7月半ば平日の夕方、彼の職場に近い駅から、およそ4～50分ぐらひのF駅で待ち合わせるようになってい

た。足早に僕も出掛けてみると、改札口には、同じ営業所の部門と同系列の事業所に勤務しているわが高専卒の後輩2名-TとOの両君もにこやかに、共に出迎えてくれているではないか、……そこで一同打ち揃って駅前通りをしばらく歩き、それからすぐ隣接の裏小路に足を踏み入ると、まもなく焼鳥屋の小ザッパリした一室に通された。一つのテーブルを4人で囲むという、超々ミニの“高専同窓会”がいよいよ始まった。

そこでのお互いに通じ合う話のタネといえば、在学時代の思い出や学校の近況、それからまた3か月後に予定されているという、O君の耳寄りなゴールインのハッピーニュース、因みにそのフィアンセについて、それにまつわるそもそもの経緯のくだりなど、こちらも多分おのろけムードを引き出そうと懸命に努めつつ、いろいろと尋問聴取の上、さては将来の生活設計に対する注文事項に至るまで、——とにかくアレコレ織りまぜてのトピックで、たちまち2時間という時の刻みも、すっかり忘却のかなたに追いやられた始末であった。

ところで、そんな雰囲気最中に、ふと彼らの口元から洩れたのは、「先生って、案外柔らかいところがあるのですネー」と、まるで今になって初めて新発見でもしたかのような口物を、驚きの表情もろとも表わした一言であった。——顧みればそれもその筈、そんな一面など、教室内の授業中なんかでは、絶対にうかがい知れぬものであったし、またこちらもあえてそうした片鱗さえ見せなかった、いわばごく内向きの物差しでしか測れぬ代物だったからである。それが飲むほどに酔うほどに、はしなくも垣間見られたというわけだった。……これも、たまゆらの師弟交流の集いが醸し出してくれた一つの功德だったのかも知れないし、また僕にしても、石地蔵みたいな、お堅いばかりの一介の教師でないことの、実証的再認識のチャンスにでももらえたなら、それこそ望外の仕合せとでもいうべきではなからうか?

やがて来春（S56年3月）には、いよいよ高専の任期も満了という、不可避の命運が待ち構えている今の僕にとっては、まさしく「以（もっ）て瞑すべし」とでも、その夜の感慨を表現したら、恐らく自ら得心がいくことでもあろう。そして退官後も、折々にはまたこんな嬉しいミニパーティーに恵まれたならば、さぞかし……と、心中ひそかに独りつぶやくのである。

サッカー部のいままで

サッカー部顧問 柳瀬晴海

卒業生諸君、元気で活躍のことと思います。同窓会

誌にサッカー部についての記事はこれまであまりのっていませんでしたので、この機会に部の抄史をかかげ、今後のことについての希望等をのべたいと思います。

サッカー部は学校創立（昭和37年4月）と共に創設されました。その当時の顧問は沢田真養先生（現沼津東高）で、第5期生位迄の卒業生は授業をうけたと思います。

さて、東海大会にサッカーの試合がとりいれられたのは、第3回（昭和40年）からでして、会場は鈴鹿、見事優勝しました。それこそ他校をよせつけずある試合は6：0で勝ったことを覚えています。

第4回から第6回までは入賞はしましたがカップがとれず苦しい時代がつづきました。

とくに第2期生中心のチームは今迄のうちでも最強と思っておりますが第2位となり、勝負のきびしさをつくづくと感じたものです。

第7回は優勝、それから第11回迄は入賞1回でつらい期間がありました。第12回から第18回迄は実に優勝4回、他は3位以上の入賞という成績で、全試合16回のうち6回優勝、2位3回3位5回です。6回優勝というチームは東海4県の高専には他にないと思います。第19回

からまた苦難のみちがつづく様な気もしますが、なんとか栄冠をとりたいと思っている次第です。

全国大会は昭和43年に第1回が開かれてから13回おこなわれましたが、出場したのは7回で全国3位を2回取りましたが、これ以上の壁は厚かったです。猶東駿河湾サッカーリーグは4年程前2部になりましたが、54年度では2部で優勝し1部に昇格いたしました。

今後もつづけてゆきたいと思っております。

個人的な話で申し訳ありませんが、私が本校に奉職（昭和38年）したときは、40才でしたので、選手諸君と共にグラウンドを走ったり、蹴ったりして楽しくやってきましたが、昭和46年頃約1ヶ月程入院し、その後あまり体調がさえず最近にはたまには蹴るという位です。しかしサッカーは忘れられませんので今後も顧問としてつづけてゆきたいという気持はもっております。

どのクラブもそうでしょうが、“斗志”“体力”“技”“感”をもつ選手を揃えることは難しいことですが、サッカーの魅力にとりつかれた男（例えば1日1回はボールを蹴らないと寝れないとか、月夜の晩にはヘッドイングの練習をやりたくなるとか）等が集まってくると

年度	東海国立高専大会			全国大会			備考
	回	順位	場所	回	順位	場所	
37							37年4月 創部
38	1						陸上、卓球、庭球などで、サッカーは大会がなかった。
39	2						
40	3	優優	鈴鹿				東海大会サッカー第1回始まる
41	4	2位	岐阜				
42	5	3位	豊田				
43	6	3位	沼津	1	3位	藤沢県営グラウンド	全国大会第1回始まる
44	7	優勝	鈴鹿	2		読売ランド	
45	8		岐阜	3		千葉県営グラウンド	
46	9	2位	鳥羽	4			
47	10		豊田	5			
48	11	3位	沼津	6			
49	12	優勝	鈴鹿	7	3位	群馬県営グラウンド	
50	13	優勝	岐阜	8		大垣市営グラウンド	
51	14	3位	鳥羽	9			
52	15	優勝	沼津	10		郡山日大球技場	
53	16	優勝	岐阜	11		トヨタ自工グラウンド	
54	17	2位	鈴鹿	12			
55	18	3位	豊田	13			

冠は間近と分かりますが、なんとなく走りただ蹴り目標のない練習になって“きびしさ”を失ってしまえばもう“おしまい”です。

今後は精神面に力を入れないとチームの将来性はないと思っております。（私も年をとったのかも知れません）。この学校に在職中には全国制覇の夢を是非実現したいと心に抱いています。

同窓生諸君！ サッカー部の先輩！
ひとつ今後はおりをみて学校に来て下さい。

練習にだらしないければ“きついお叱り”をまたそれなりの“励まし”その他をお願い致します。また昭和55年度登録選手は29名です。

現在の顧問は昭和44年以後の平林先生と私です。また本年度はコーチとして第6期生の坂井徳尚君におねがい致しました。

猶来年の会場は鳥羽、再来年は沼津です。
最後に部員であった第1期生杉山雅章君（主将）、第5期生真野峰夫君の御冥福をお祈りして筆をおきます。

●お願い

誌上をかりてサッカー部の卒業生諸君におねがいがあります。第1期生以来サッカー部として卒業した方は第14期迄で69名（故人2名）です。サッカー部卒業生名簿を作製中ですが同窓会名簿を主体としておりますので勤務先、住所変更等がありましたらなるべく早く本部に連絡が直接私にでもお知らせ下さい。

南小林游泳会便り

渥美武明

土用の丑の日だとゆうのに赤トンボの群がとびかよふ妙な景観に戸惑いを感じながら立秋が過ぎてしまう異常な気象でしたが、先輩諸兄には相変らず多忙な日程をお元気で爽快に消化されておられること、おもいます。

今年は当校で新装なったプールで、7月12・13日に高専大会水泳競技会が開催されました。毎日をハラハラする練習で積みましたおかげで、次表の通りの成果を修めることが出来ましたのも諸兄が我が身のこのように、陰に陽に何呉れとご支援を戴いた賜ものと感じ入っている次第です。お礼申します。来年も、次にくる年も、又その次も、と頑張りますので可愛い弟輩達のため相変ぬご励声の程をよろしくお願い致します。

初島→熱海東海岸の団体競泳大会は8月4日でしたが、10号颱風の影響で波浪強く、初島にて開催不可能の断が降り、今年では中止となりました。合宿7日間、この大会のため合宿入り前、富士山頂に一同登り、ご来光を

種目	学校名	鈴鹿	豊田	沼津	鳥羽	岐阜
400m 継 泳		4	5	7	2	3
200m 平 泳		0	3	12	5	2
200m 背 泳		0	6	6	0	10
200m 自由型		3	5	7	7	0
200m バタフライ		5	2	11	4	0
800m 自由型		4	2	6	7	3
400m 混継泳		3	2	7	4	5
400m 自由型		4	1	5	7	5
100m 平 泳		4	5	6	7	0
100m 背 泳		0	1	9	2	10
100m 自由型		0	7	6	7	2
100m バタフライ		5	3	10	4	0
200m 個人混泳		9	7	1	0	5
800m 継 泳		3	4	7	5	2
合計得点		44	53	100	61	47
順位		5	3	1	2	4

拜し心も新に祈念し、8,000~10,000の毎日練習を重ねて来たので、ことのほか残念でなりません。遠く44年の大会もそうでしたが、張詰めていた気持ちを静めるのに難儀を致しました。お察し下さい。

沼津市スポーツ祭・水泳競技会には、200m継泳に何年か破れなかった大会記録を更新して、伊豆駿河湾水泳連盟から改めて見直されましたので特にお報せ致します。

今シーズン予定の対外五試合も無事消化をしましたので、来期に備え、冬期には各地の駅伝競走へ出場の覚りですので、先輩諸兄と遭偶の節には選手達に何卒、発声応援を下されば幸いです。

軟庭部とOB会

顧問 佐伯純一

軟庭部の顧問をしておられた機械科の大石先生の御不幸があり、当時新任であり運動経験の乏しい私がとりあえず部の世話を引き受ける事になってから既に5年が過ぎようとしています。しかしその間技術指導も出来ないまま顧問を続けてこられた理由は、1つは赤羽根先生やその後を受けて頼尾先生が助けて下さっている事、そしてもう1つは軟庭部OB会の存在であると思っております。

OB会は例年5~6月頃に行なわれ、丁度高専大会を控えた選手やその他の部員を励ますという形で行なわれます。OBは最近卒業した数名の人達が大学へ進学しているのを除けばいずれかの企業で仕事をしており、特に

初期の卒業生は御存知の様にそれぞれの企業で中堅所として活躍しているため忙しく、しかも静岡を離れて国外へまでもかなりの人が行っているため集まれる人数はごく限られたものですが、それでも入れ替わり立ち替わり私にとっては初めて接する方が毎年来られ、それぞれの職場での様子や学生達への学校生活へのアドバイスを与えて行かれます。

毎年この会に呼ばれ、出席させて頂いてつくづく感ずる事は、そういったOBの方達が社会の中で培った物の見方や考え方が新鮮さを持ってしかも生きた形で学生達に伝わる事と、それが軟式庭球部員の特典だという事です。

残念ながら学生達が皆その様な受け取り方をしているとは言い切れず、あるいは下級生に取っては実社会とのつながりと言った事はまだ関心の無い事なのかも知れません。その結果として2年、3年でかなりの者がクラブを止めてしまい、この辺りの事情は他のクラブと同じ傾向を持っています。

しかし本年度も団体戦で東海大会、東海北陸大会を勝ち抜き全国大会へ進出しました。選手自身の口からも出た様に、本年度は東海地区の代表として力不足ではないかと思われたのに見事それを果たしたのです。もちろん選手達自身の努力や1、2年生の応援や活躍もあったわけですが、OB会の役員であり同時にコーチである中村さんが、勤め先のコート使用に便宜を与えて下さったり、忙しいにもかかわらず仁科さんが大会の応援に行ってお下さったり、またOB会がそれを支えている事が大きなポイントだと思います。

ところで、軟庭部に限らず運動部全般に通ずる悩みは他校特に高校生との試合の機会に恵まれないという事です。つまり高体連に所属していないために高校生を対象とする大きな大会に出る事が不可能であり、この事が選手にとっては目標を失わせる事になりがちです。もちろん一般の大会に参加する事は可能ですがやはり同学年の者同志の試合の方が有益な刺激が与えられます。その様な意味で軟庭部においても近くの高校、例えば三島高校、北部、沼津東、沼津工業などと積極的に交流試合を進めています。そしてできるだけ早い時期に他高校が目標にする程の力を付けたいと部員一同と伴に願っている次第です。

陸上OB会について

陸 上 部 1 O B

毎年正月、我が沼津高専陸上部OBが年1回の再会を



楽しみに、OB会を開催しております。今年も、静岡にて陸上部顧問の勝又教官を迎え、初代主将安藤さんを筆頭に20名程出席しOB会を行いました。私は、初めて今年出席し、約10年ぶりに先輩の方々と再会し、当時(往年)の出来事に話を咲かせました。

私が陸上部に入部した年から、全国高専大会が開催される事となり、各クラブ共、それは活気が有りました。陸上部も例外ではなく私達も、かなりしごられました。今も記憶に残っているのは、入部したその日の帰り、自転車で乗ろうとした瞬間脛返りを起こし、友達にふくらはぎをさすってもらって帰った程です。当時、五年の安藤さん、壁谷さんが卒研で忙しく、四年の金田さん、三年の高橋幸吉さんが練習を見ていましたが二人共、練習好きで、私達は如何に練習をさぼるかを考えていたものです。この人達はスタミナの権化で、いくら練習しても常に私達の先頭を切って走っていました。相対的に長距離選手は練習好きで、短距離陣は練習嫌いではないかと……。

第1回全国大会でのハイライトは、五千mの安藤さんの優勝です。ラスト1週までトップとの差は約200m。ラストの鐘を聞いた瞬間ストライドの伸びないすり足のピッチを上げ、手の指を、ネコがじゃれている如く、必死に振り、顔はザトベックの形相で、息はゼンソク患者の様に吐き、どこから見ても陸上選手の走り方ではないのですが、最後の直線コースでトップを抜き、優勝したのです。こうして安藤さんや、幾多の先輩達が沼津高専陸上部に大きな足跡を残して行ったのです。

しかし陸上部OB会は、こんな人達ばかりの集団では有りません。試合に出る選手の脚をマッサージした人、練習中いつも最後尾で走っていた人、マネージャー業に専念していた人も、抵抗なく入っているのです。何故なら、15才から20歳の青春時代に、同じ沼津高専陸上部で、300mトラックを、フィールドを汗を流して、走り、跳んだからではないでしょうか。後1周でゴールだ。もう少しだと胸に言い聞かせ、黙々と走ったからではないでしょうか。陸上競技は孤独です。だから、アスリー

トはお互いの心情が理解できるのです。縁の下の力持ちの人達がいて、始めて、円滑なクラブ活動がなされている事や、伝統や、OB会が存続する事も。

これからも、陸上部OB会は、アスリーの心情が有る限り、後輩の活躍を見守り乍ら、永遠に続くでしょう

第3回(?)E5クラス会 開催される

E5 秋 山 康 孝



去る55年1月2日、久しぶりのE5のクラス会が13:00より沼津の桃中軒にて開かれた。これは49年1月3日に、やはり同じ桃中軒にて開かれたクラス会以来実に6年ぶりのことであった。

親睦テニス大会開かる



8月10日(日曜日)午後1時より、母校テニスコートに集った精鋭が、互いに技術の限りを尽くし凄絶な戦いを繰り広げた。

出席者は40名中23名という人数であり、本来ならば全員が集まってもよかったのだが、旅行にいていた者、妻帯者でどうしても都合のつかなかった者等があり、40名全員が顔を合わせられなかったことは残念であった。

当日はとなりの部屋でも沼津東高の同期会が開かれていて、女性がだいぶきていたようで、我々のクラス会の女性なしに比べてうらやましいかぎりであった。しかし、忙しい中を時間をさいて出席していただいた佐々木教官、浜屋教官、平林教官といっしょに昔のなつかしい話や現況等を歓談し、時間のたつのがなんと早かったことか。中でもメインイベントであった8ミリの映画は印象深かった。8ミリ映画といってもブルーフィルムではない。我がクラスにどういふ訳か学生時代8ミリを撮っていた者がいて、昔のなつかしい場面が上映されたのである。朝の登校途中の様子、各教官の授業風景、授業中に居眠りをしている者(有名な奴)の様子……これはどのようにして撮ったのか不思議だった……、5年最後の高専祭、前夜祭、体育祭の様子等みんななつかしいものばかりで、みているうちに皆時間をさかのぼって学生時代の雰囲気になり、過ぎ去った日々が鮮明によみがえってきたようだ。

時間も過ぎて、16:00ころになり、クラス会はお開きとなった。1目会ったとたん、数年間も会っていないことを忘れてすぐうちとけあえる。これがクラス会の本当によいところだと思う。今後ともこのようなクラス会を続けていきたいものである。できれば40名全員が集まって!

3時間に及ぶ熱戦に参加したのは、M1白井、伊達、M2仁科、金田、M3望月、E5小川、C2中村、M6坂井、木戸、M6筒井、M8近藤、M14杉山、C10若松と特別ゲストにM1柳下教官、主催者の期待も空しく、女性会員の参加はゼロ、だが、木戸夫人と柳下夫人の応援や、14期某氏の個人的な応援の女性もあり、華やかなコートサイドであった。

熱戦の結果はここでは触れないことにするが(記者の個人的な都合であります)、1期、2期の方々の、最後までコートに白球を追う姿に、さすが亀の甲よりなどとコートスズメのさえずりも。

次回はより多くの参加を望む声(特に女性会員の参加を望む声)しきりであった。

M8 近藤 博明

— 今回のテーマ —

自分の仕事について

「H・K・Sのその後」

M1 長谷川 浩之

突然にHKSのその後について書く様にとの話しが、ありましたが、どこまで以前に書いたか記憶が明らかでないで、気ままに書いてみます。私がHKSを作り、色々の製品を作り出して、全国のカーショップ、用品店、ガソリンスタンド、タイヤショップ等にて販売しております。製品はといえば、時代の花形である、ターボチャージャーキット、ピストンキット、ヘッドガスケット、バルブ、スプリング、インタークマニホールド、クラッチカバー、クラッチディスク等であります。

これらの種類のパーツを一応は、売れる商品か否か、及びHKSの企業に合った商品か等を良く検討して決定しております。最近、特に金型に、費用を費して、最終品の段階でのコストダウンに注意を払っております。

商品の企画、設計、製造、販売、宣伝等の事を、小さい企業としても、一応行なわれない事には、商品が育ちません。大メーカーよりも神経を使って計画、実施しております。

HKSと言うとターボチャージャーという位に、HKSとターボとは、切っても切れない仲です。ターボチャージャーが、これほどまでに、世の中でさわがれるのは、なぜか？

ガソリンの値段が上昇すれば、するほどにターボに期待が集まるのです。エンジンの容積は小さくなる。しかし、従来以上に性能は、確保したい。こんな事より補機能的につければ良い、ターボチャージャーは、全く便利な物です。世界中の自動車メーカーが量産車種に乗せて来る事でしょう。しかし、全ての車につくかと言うと、つかないでしょう。市場において、必要とすべき車種があり、軽自動車に必要なか？ 考えれば、解かる事です。

世の省エネブームは未だまだ続く事です。自動車の関連メーカーも皆、省エネタイプに切り替えが行なわれており、我々も、色々と考えなければならず、苦勞は多い

です。

三年前より開発を進めていた、オートレース用のエンジンが、いよいよ完成して、市場に出る事になり、開発をして本当に良かったと思った。このエンジンを設計して、製作、試験等を通して感じた事は、第一に、全てHKSのオリジナル商品であり、次の時代にHKSが、エンジンを企画、設計して行く上で必ず役にたつ事が多かった。シリンダーヘッドの鋳造方法等については、何度トライをした事かと思える。鋳造屋も色々と考えさせられる点が多かったと思えた。カムシャフトのプロファイル研磨については、表面の仕上げ精度を上げる研磨方法を色々行ってみたり、シリンダーヘッドの機械加工用治具、加工用カッター等その場にて、若い人達と相談して改良を重ねた。一気筒のエンジンは、エンジンの仕様を少し変化させてもすぐに、その反応が出て来るので、エンジンの特性を知る上では、何とも言えぬ収穫がある。

信頼性を上げ、性能の向上をはかり、オートレース用のエンジンとして、確実なる地位を保つべく、これからも改良を重ねて行く計画である。二年～三年後には二気筒の四バルブのエンジンを作るべく基本計画に入っている所である。

今年の新入社員は、大卒2名、高専卒1名、中途1名と4名入社した。この人達と接して感じた事を書いてみる。まず、大卒は、体を動かす以前に、何かと、言う事が多く、人格の形成されている過程でどうも、ゆがんでおり、すなおな心を持っている人が少ない。仕事の上で感じるのは、我慢をする事が出来ないという事もある。自分の行っている仕事よりも自分の能力以上の他人の仕事にあこがれるという、何とも言えぬ気持ちを持つ人等、全く、数多くの大卒を知っているが、何よりも、世の中に出たのだから、まずは、すなおな心を持つ事と思えて仕方がない。

高専卒は沼津ではなく九州の方から取ったのであるが、良くぞこんな成績ばかり学生時代、続けたかと思えた。大卒よりも未だ悪い。特に学校側に進級させる事を安易に考えていると思えて仕方がない。成績が良い悪いもあるが、人間性の向上、充実の点の教育を十分に行なって欲しい。企業において活躍出来るには、ま

ず、心の持ち方一つであると思う。職場の人間としてだれにも好かれ、人の言う事を実行出来る人であって欲しい。同窓の友も、後輩の中で感じる点もあると思えるだろう。

我々の新人だった時代のノモレット社員は現在の世の中では、余り好感を覚えられていない様子である。しかし、時代は変化しても心の持ち方は変化しない。常に感謝の心と、すなおな心を持ち続けたいものである。

お陰様でHKSも15名の大世帯になり、社員一同、皆元気で頑張っており、私も健康に気をつけて頑張っている。皆様には、何かの折、よろしく願いたします。

8月13日早朝

旭硝子株式会社

M6 山田 敬二

早いもので、卒業して9年目を迎えております。現在勤務先は、旭硝子(株)愛知工場ということで、実際は愛知県豊田市に在住しています。旭硝子という会社は一般に知名度が低いと思われまので少しばかり紹介します。板ガラス生産が主体で、又その原料となるソーダ灰等の化学品もやっています。原料を溶解する炉の耐火レンガも作っています。その他に、テレビのブラウン管用ガラスと自動車用窓ガラスも生産しております。私は入社以来、自動車用窓ガラスの生産部門にたずさわっております。現在国内では、この自動車用ガラスのメーカーは3社しかなく、旭硝子が半分以上のシェアを占めております。自動車ガラスにはメーカーマークが打刻してありますから、今度乗った時に是非確認してみてください。

私のいる工場は従ってトヨタ自工を筆頭に、三菱自工、本田技研等に、納入すべくガラスを生産しております。私は品質保証課という部署に属し主に検査業務、品質管理、クレーム処理をやっています。クレーム処理に関しては、度々自動車メーカーには、お邪魔しております。その度にだれか知った人に会うのではないかと感じていましたら、本田技研鈴鹿製作所で、C1の日向清隆さんにお会いしました。在学中は学科が違っていた事もあるが、顔を知っている程度の間柄であったと思いますが、この様な機会に出会えますと、何んとかく親しみが湧き、なつかしく感じました。

旭硝子内には沼津高専卒業生が数名いる様ですが、私が知っているのは次の2名の方です。ひとりM4の金丸茂幸さんです。金丸さんは、施設部門で活躍されています。私とは仕事ではあまりかかわりはありませんが、時々社内のゴルフのコンペでお会いします。ちなみにス

コアーは、グロスで金丸さんが90~100、私が100~110です。もうひとりM7の秋山隆芳君です。彼は今横浜市鶴見区の工場にいます。私と同じ部門で自動車用以外の一般車輦用及び産業用ガラスの製造技術員として活躍されています。

旭硝子内の高専卒の置かれた立場というのは、大学卒と高卒の中位といったところですが、給与、昇進といった面の事です。

今年の2月に結婚しまして、又ひとつの節目からスタートといったところですが、何か勉強するといった習慣からは相当遠ざかった日常ですが変わらずながらやっている事があります。それは2年程前からラジオの英会話を毎朝聞いています。予習、復習もやらず、15分間だけです。最初は聞く事が苦痛でもありましたが、最近やっと習慣化した様です。会社では、やはり最近の例にもれず英会話をやる様言われております。現在の仕事の中では差しあたりそんなに必要はありませんが、3ヵ月に一度イギリス人が、製造工程の品質監査にやってきました。これは自動車英国へ輸出される場合、ガラスは重要部品のひとつと言う事で、イギリスの品質規格に満足しなければならず、そのチェックにやってくるといったものです。その時私も多少分担を受け持っておりますので、わずかながりのJapanese Englishを話します。そんな事から思い立って15分間だけでもと、始めた様な次第です。やる気というのは必要に応じて程度しか起きないものです。まあ今後は徐々に時間をふやす様にしたいと考えてます。

以上近況という事で述べましたが、相変わらず何んとかやっているといた状況です。又機会がありましたら投稿させて下さい。

ふたたび沼津へ！

M7 八木 壮一

沼津へ赴任したのは昭和50年の春であった。

春らしい薄曇りの朝、沼津へ向かった。営業所には、工場とは違った新しい仕事がある。——(7年前の坊主頭の自分が甦る)果物屋の前を吹き抜ける乾いた風を感じながら車を降りた。けっして大きな建物ではない。2階建ての屋上に、看板のみが、建物の大きさに比して、不均合に大きくみえる。総ガラスの扉を押すと、思ったより中は広い。個性ある顔が並んでいた。

沼津営業所の初年度は、仕事、生活両面共にかなりハードであった。看板の下で単身赴任の課長と同居し、通勤時間ゼロを唯一のメリットに守衛業にも励んだ。年が

進むと、課長は名古屋へ、私も一軒家へ移った。

当時の仕事内容は現在とほぼ同じであるが、販売重点政策のため、最近では、特に「売り」が重視されている。朝9時から午後5時30分迄の定時内に仕事が終わる事は少ない。客先の都合、打合せの延長等で帰社が遅くなる事も多い。特に、最近では省力機器に関する仕事が多く、仕様打合せが細部にわたり、時間を要す事が多い。

営業所の一日は、先週末に立てた週間予定表を基に行動する。但し、飛び込みもかなりある。最もやっかいな事は、クレームである。特別な内容を除いて、仕事は、各人に任されている。帰社時、日報にて上司に進捗を報告する。

午前中は関係工場との連絡打合せ、手配、納期フォロー等。9時からなので早く昼飯。午後は、客先訪問。

客先との打合せ内容によっては、関係工場、磐田、桑名、大阪等への出張も必要となり、省力機器製品製作の磐田工場へは、かなり足を運んだ。所長は、回数が多すぎると口をしかめていたが、機器製品ばかりをかわいがっていた訳ではない。

この恩恵を受けて、昨年12月に所帯を持つ事ができた。

虫の声が、優しく、妻の枕元へ流れる。

明日は、桑名工場へ一泊二日の出張だ。

NTN東洋ベアリング営業所勤務

沼津市東沢田141

2年4組 信明先生

M1 鈴木信明

今、私は夏休み水泳指導中で、真黒な顔をしています。現在の職業は教員で、世田谷区立駒籠小学校の2年4組担任です。

「日本の工業を興す」高専卒業生が？と思われるかも知れませんが、1976年4月長年勤めた会社を辞めて、教師になりました。理由については、長くなりますし、本題が自分の仕事ということなので省かせてもらいます。

現在私の受持っている子供たちは、2年生42名（この年令のお子さんの親となられた卒業生もいらっしやると思います。）昨年度は6年生を担任し、今年の4月から2年生を担任したため、初めは、とって小さく、可愛く、また、とっても騒がしいと感じました。

私の一日は、会社員だった時に比べ、とても慌しく過ぎて行くことが多いです。朝8:20~12:20迄午前中の授業と休み時間。12:20~13:45迄、給食、清掃、13:

50~14:35午後の授業。15:30~週に2~3回打合わせ。

この間に、様々な出来事が起こるのです。「先生、トイレに行っていていいですか。」「先生、宿題忘れえました。」「先生、〇〇君がいじめるよ。」「先生、給食こぼしちゃった。」「先生、おなか痛くなった。」「先生、手をすりむいた。」「先生、おとしものだよ。」「先生、ハーモニカふいて。」「先生、おとしものだよ。」「先生、ハーモニカふいて。」など、など……

一日のうちに何回となくくり返されるこんな会話に、時には微笑ましく、また時には煩わしいこともあります。それを一つ一つ聞いてあげることが、この年代の子供の喜び（子供たちは、何でもいから先生と話したいのです。）につながると思うと、いやな顔もできず、一人一人に答えてあげます。

ルーチン化されている仕事と少々異って、子供相手ですので、思わぬ出来事が、いつ起こるか予想がつかず、テンテコ舞いする日もよくあります。

私は、子供と遊ぶことが好きなので、帰りに時間があれば、子供とゲームをして遊びます。その時の子供は、とても嬉しそうで、教師と子供との交流も深まっていくように思います。

教材研究や教材作り、ノートなどの点検は、どうしても勤務時間内では終わらず、家に帰るのは7時過ぎ家でもがり切り（学級通信やテスト）等の仕事をしています。しかし、教員には残業手当はつかないのです。金銭のこののみを考えるとやり切れなさもありますが、自分の仕事は少しでも子供たちの成長につながると思い、子供たちの顔を思いうかべながら仕事をしています。

敢えてこんな事を書いたのは、教師に対する批判、不満が取り沙汰されている昨今、卒業生の人達に、少しでも教師について理解して頂こうと思ったからです。

さて、教師になって、最も感動した事は、今年3月の卒業式です。今年卒業した子供たちは、私が教師になって初めて担任した子供たちで、彼らを3、4、5、6年と担任したのです。（もちろん、クラス替えがありました。）

卒業式では泣くまいと思っていたのですが、音楽卒業式で、歌を歌っている時、声がつまって歌えなくなったことも度々ありました。校門で最後のさようならをした後、たまたまなくなって無人の教室に駆け込み、泣いてしまいました。初めての卒業生を出した感動は、いつまでも忘れないと思います。自分を受持って下さった恩師の気持ちだが、初めて解ったようでした。

最後に、最近の子供達や親について感じている事を書いてみます。

「カラスなぜ鳴くの、カラスの勝手でしょ」

これは、ご存知ドリフターズのコミックソング。自分も勝手、他人も勝手、他人が困っていても知らん顔。社会全体に連帯感の乏しくなった現代の世相を、とてもよく表わしていると思います。子供達はこの歌を大変嬉んで歌います。でも私は、この歌が大嫌いです。

自分の子供のみを可愛いがり、他人からの注意を素直に聞けない親がとて多いです。

今の子供は、「物を大切にしない」「金の使い方が荒い」「礼儀を知らない」etcと言われますが、よく考えてみると、子供自身が悪いのではなく、子供をとり巻く我々大人の問題が子供に転嫁されているのではないのでしょうか。

子供は、その親だけの子供だけでなく、まして親の従属物でもなく、未来社会を担う、社会全体の中の子供として育てていく必要があると思いますが……。

未来社会が、人間味に溢れた、住み良い社会になるよう、今一度我々大人の責任を考えてみたいと思います。

私も、点数至上主義に陥らない、心優しい子供達を育てていくため、今以上の努力をして行きたいと考えています。

1980. 7. 31記

日立のコンピュータ

E2 大熊康雄

卒業してから12年以上になるんですね?!

社会に出てからの年月が圧縮されて、沼津での学生生活がつい先日のごとくに思い出されます。

小生、まず日立製作所に勤めています。!

7年ほど横浜にいて、5年前に名古屋に移りました。

現在の家族構成は、しっかり者の妻と今年小学校に入学した1人息子の3人で、近くに岩屋堂というひなびた温泉がある瀬戸市の山奥に住んでいます。

瀬戸市は御存知のようにセトモノで有名な陶器の町で、日用食器はもとより、陶芸の良い作品を見ることが出来ます。

工場は旭工場と言って、名古屋市郊外にあり、ミニコンと端末装置の専門工場です。そこへ毎日30分位かけて車で通勤しています。

2年程前から同期の久野も旭工場へ転勤してきてびっくり。/（日立も大きいようで小さいな。）

仕事は横浜にいるころから銀行オンラインシステム関係で、銀行営業店で使用するターミナルシステムのシステム設計をやっています。

日本の銀行オンラインシステムは世界でも一番進んで

いると言われるほどで、ターミナルシステム開発部門の我々としても、技術と顧客ニーズの先取りが必要であり、多忙な毎日になっています。

先日、野島先生からコンピュータ関係のアンケートが届いて、学校でも情報処理の関係に力を入れているのだなと感じました。

マイクロプロセッサが世に出てからは応用分野が一段と広がっており、ソフトウェアを中心とする教育を十分に受けた後輩が社会に出てくることを期待しています。

小生としては今後も「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待に応えよ」を念頭において努力精進したいと考えております。

東京一名古屋の往復は多いのですが10年近くも御無沙汰しており、今年はぜひ沼津でおいて学校に立寄りたいと思っております。

電気工学科

十四期生のみんなへ

E14 林 智 夫

E14のみなさん、御元気ですか。私は、東芝機械・沼津事業所・電気部・第二制御部・電子装置技術課に所属しています。仕事内容は、TOSNUC = 500 というNC装置の出荷前の試験・検査です。学生時代にはNCについて何も知らなかったし、自動制御の授業はソフトボールでよくつぶしたから、今仕事を覚えるのに大いそがしの毎日が続いています。もっと勉強すればよかったなと、やっぱり思ってしまうですね。思いたくないけれども。

4月、5月は、毎日会社の各事業部の紹介や、油圧、社内規格などの授業がありました。これが眠くて眠くて、最前列中央の席で学生時代を思い出しながら目をつぶりながら話を聞いていました。6月、7月にはマイコンの授業があり、ゴキブリホイホイゲームという、TVゲームを作り上げました。

会社には、沼津高専出身の先輩がたくさんおられますが、私の課にも、三人のとてもいい先輩がおられます。（M1の伊達さん、E8の後藤さん、E12の土屋さん）やっぱり心強いですよ。

残業が多くて、御殿場の山奥から、通勤するには、ちとキツイので、7月から会社のマンションで生活しています。この間、モンジャーが、私の部屋に遊びにきました。みんなも気が向いたら来て下さい。私と同じ階に、M14の高木君もいます。彼はジープを買いました。私も正月前には、車でも買おうかなと考えています。

今、私のいる会社が本当に自分に最適であるとは思わないけれども、がんばっていきこうと思っています。みんなもそれなりにがんばって下さい。女の方もさらにがんばって下さい。セイコウ イノル オワリ

点火装置は国産電機

M9 芹 沢 芳 正

早いものである。入社して5年が過ぎ今年は6年目である。今考えれば私の入社はいよいよ加減なものであった。たまたまクラブに練習を見に来ていた卒業した先輩に、就職のことを聞かれ、家の事情等を話すと「長男だったら、近くの会社がいいから、うち（当社）へ来るか？」と誘われ、「それじゃ行ってみます。」という感じで国産電機に決めてしまった。しかし、我母校のすぐ近くにある大企業でありながら何を生産しているのか全く知らなかったが、入社試験を受けると受かってしまった。ただ面接の時は先輩からの適切なアドバイス（『正面玄関の製品展示棚をよく見ておけよ』）のおかげで事無きを得た。いつも、学年末になると担任の先生に心配をかけていた私であるが就職に関しては、一切の心配をかけることがなかったと思う。

あまり真剣に考えないで入社した国産電機であるが仕事内容としては、変化のある飽きないものをやらしてもらっている。配属前、生産技術関係を希望していたのであるが、生産技術も、製品設計も同じ設計だと考えている我社の労務課のおかげで、多くは電気系の学生が配属される製品設計に配属されてしまった。ここで我社の製品をPRを兼ね紹介しておく、農業、汎用、二輪車、スノーモビル、船外機エンジンの点火機器、複写機等に使用されている小型モータ、発電機といった磁気に関係した電気製品ばかりである。どう考えても、工学実験でしか電気に携わった事がない機械科出身の私にとって不向きであると思えなかった。私が配属されているグループは、二輪車、スノーモビル、船外機の点火系の製品を設計するところで、これらエンジンは高回転のものであるため、電気的性能を維持するため機械的強度を求められる事が多い。また我社は小さな会社であるため人的投資が少ないので、一つの製品を分担して設計するような方式をとっておらず、1人で1から10までの設計をしなければならぬ。そうすると、一応、ダイキャスト、プレス、熱処理、切削加工等の精度、技術を知らなければ設計ができないのである。あたり前の話である。その辺の所は、学校の授業でやった事があるのでやり易い感じがある。電気性能が主となる製品であるが、それ

を作るとなると機械科の学生が主として学ぶ勉強が役立つことがよくわかり、当初の不安は消えた。ただ、性能を出すための磁気学、半導体関係のことはよくわからず、また四苦八苦している有様である。

現在は50cc～250ccクラスの2輪車のマグネットと250cc～650ccクラスのフルトランジスタ点火装置の信号部分を担当させられている。自分の設計した製品が組込まれているオートバイを見ると『絶対、点火系ではトラブルを起こすな！』という気持ちで睨みつけている。

建設の楽しさ

E8 土 屋 篤

- S. 49. 3 高専卒業
- S. 49. 10 凸版プラスチック第2期工事（見習）
- S. 50. 6 東横食品溝ノ口寮増設工事（見習）
- S. 51. 3 D.K.B. 真中アパート新築工事
- S. 51. 9 ベティ橋移設工事
- S. 52. 1 電気工事士免状
- S. 52. 3 市川ビル大改修工事
- S. 52. 8 東洋インキ製造技術研究所変電所改修工事
- S. 53. 6 消防設備士甲種第4類
- S. 53. 7 東洋インキ製造第10工場改修工事
- S. 54. 3 信州大学旭団地福祉施設新築電気工事
- S. 54. 11 東洋インキ製造西宮工場インキ棟・ワニス棟新築工事
- S. 55. 5 東洋インキ製造特等玉工場第1期建設工事
- S. 56. 4 東池袋マンション新築工事（完成予定）
- S. 56. 4 結婚予定

皆様に、いつ辞めるか、いつ辞めると、思われ、言われ続けて、とうとう6年もたってしまいました。

建設業という職業は何となく、子供がオモチャを作るのと同じで、出来上がった時に、何とも言えない満足感が得られ、私の性格に、多少、合っている様です。

電気工事というもの（他の職業でも同じだと思うのですが）学校で学んだ事等、さほど必要とせず、どんな風に、土方のオッチャン達と接し、

どんな風に、オジサン達の職人達を使い、
 どんな風に、建築屋や、設計事務所と接し、
 どんな風に、客と接するか……という事が大切なポイントです。

社会に出てから、大切な事は、いかに自分の廻りと、自分なりの世界（生活の場）を作っていくかという事だと思います。学生時代、平凡な生活が嫌で、たえず、非凡な事を求めていたけれど、世の中は、そんなに非凡ではなく、平凡に流れています。

良い子にならなくても良い、すねてもいい、チョットは悪い事をしていい。だけど、うそを言わない、自分に正直に生きる。……これだけは、大切な事だと思います。もっと女と遊べ、もっと友達と遊べ！

〒168 東京都杉並区久我山4-50-27 日昭電気寮
 TEL 03-331-9434

高専大会報告 第18回東海地区高専大会 総合成績表

種 目	順 位	優 勝	2 位	3 位	
陸 上 競 技		鈴 鹿	豊 田	沼 津	
軟式庭球	団 体 の 部	沼 津	豊 田	岐 阜	
	個 人 の 部	佐藤・林(岐)	福井・最川(岐)	山田・市川(沼)	
卓 球	団 体 の 部	豊 田	鈴 鹿	沼 津	
	個人部のダブルス	小 沢 (豊)	長 坂 (豊)	小 林 (鈴)	
		藤 井	岡 本	中 島	
個人部のシングルス	小 沢 (豊)	山 崎 (沼)	長 坂 (豊)		
水 泳 競 技		沼 津	鳥 羽	豊 田	
柔 道	団体の部	全国大会予選	鳥 羽	鈴 鹿	豊 田
		勝 抜 戦	鈴 鹿	豊 田	沼 津
	個人戦の部	軽 量 級	佐 藤 (鳥)	油 屋 (豊)	
		中 量 級	大 原 (鳥)	森 谷 (鈴)	
重 量 級	長 谷 川 (鈴)	荒 生 (豊)			
硬 式 野 球		岐 阜	鈴 鹿	豊 田	
バレーボール		豊 田	鈴 鹿	岐 阜	
弓 道	団 体 の 部	豊 田	沼 津	鈴 鹿	
	個 人 の 部	大 塚 (沼)			
体 操	団 体 の 部	豊 田	沼 津	鈴 鹿	
	個人部の床運動	兵 藤 (豊)	山 中 (豊)	伊 東 (沼)	
		跳 馬	兵 藤 (豊) 竹 内 (沼)		山 口 (沼)
硬式庭球	団 体 の 部	豊 田	沼 津	鈴 鹿	
	個人部のダブルス	加 藤 (豊)	北 山 (鈴)	片 岡 (鈴)	
		大 井	嶺 山	田 中	
シングルス	佐 藤 (豊)	小 林 (豊)	加 藤 (豊)		
ハンドボール		岐 阜	鳥 羽	豊 田	
サッカー		豊 田	岐 阜	沼 津	
剣 道	団体の部	全国大会予選	鳥 羽	鈴 鹿	豊 田
	勝 抜 戦	鈴 鹿	岐 阜	沼 津	
個人戦の部	森 田 (鳥)	和 田 (鈴)	渡 辺 (豊)		
バスケットボール		岐 阜	沼 津	鳥 羽	
ラグビー・フットボール					

全国大会代表決定戦 軟式庭球

沼津高専 2 - 1 富山高専

第15回全国高等専門学校体育大会

軟式庭球予選リーグ

Aブロック

	沼津	旭川	長野	勝点	順位
沼津		1	②	1	2
旭川	②		0	1	3
長野	1	③		1	1

勝点が同一のためセット数で順位を決定した。

第3回全国高等専門学校庭球選手権大会

団体戦

沼津高専 0 - 3 徳山高専

個人戦(D)

五日市 3 - 8 斎藤(宮城)
深沢 郷内

第2回全国高等専門学校通信弓道大会

優勝 (参加校 19高専)

高専大会(軟式テニス)を見て

M2 仁科和晴

軟式テニス部のOBとして高専大会の応援に行ったが



学生が戦う様子を見ながらいろいろ思うことがある。

まず、ポイントポイントの勝負に狂喜し又、悲しむ様子、このような経験は重要である。苦勞してクラブ活動を続けてこそ味わえることである。そして学生に大会で勝つという大きな喜びを味わせること。又大きなプレッシャーのもとで戦ったという体験、こういうことはその人の無形の財産となる。

最近の傾向として、学生がクラブ活動を熱心になくなったという話を聞く。確かに現代は娯楽が多く特定のことを続けることがむずかしい面があるかもしれない。軟庭部においても5年間続ける人は少ない。しかし苦勞して続けてこそ、喜びも大きいと思う。たとえ同じものを得たとしても、努力の末やっと勝ちえた場合と、ただ与えられただけの場合とでは喜びの深さが違う。社会人となつてからは、レクリエーション的なやり方もよいと思うが、学生のスポーツは、きびしい練習と試合を通して自分を磨いた方がよい。自分の経験からも、試合が教えてくれることは多い。

ところで高専における公式戦というと高専大会のみで高校における春・秋季大会・そして新人戦のようなものがない。人間は同年代の人と競い合い、刺激し合うということは非常に重要であり、高専の1~3年生までが高校生の公式戦に出場できないものかと思う。高体連加盟は種々の問題もあり賛否両論あるが、このようなことは、実現して欲しいと思う。

慶 弔 報 告

樋口校長
勲二等叙勲さる

M8 近藤博明



本会名誉会長であります樋口泉校長が、永年の功勞に対し、勲二等瑞宝章を受けられましたので、同窓会より記念品を贈りましたことを報告致します。

6月21日土曜日、午前10時から、母校の校長室に樋口校長を訪ね、なごやかなひとときをすごしました。

出席者は、仁科会長、坂井事務長、望月(M3)、小川(E5)、筒井(M7)、杉山(M7)、近藤(M8)と市川、大橋、小松、柳瀬、柳下各教官という顔ぶれで、仁科会長からのお祝いの言葉で始まりました。記念品は校長の干支にあやかって、純アルミ製の彫刻で、鳥が眼光鋭く片足立ちしているものであります。

叙勲の感想や皇居での様子などの話をうかかひ、勲章なども見せていただきましたが、某氏はそれを自分の右脇にあてて記念撮影をして、まるで本人がもらった様な喜び様でした。市川教官からは、「あの『おおのやすまる』でさえ、勲五等だからね、たいしたもんだよ」などと、先生らしい感想も聞かれました。

校長が皇居でいただいたという菊の紋章入りのピースをいただき、勲二等の香りを味わいながらの話はずんで、沼津高専の将来や同窓会のことなど2時間が、あっ

というまに過ぎてしまいました。

校長を囲んで記念写真を撮って、この会をお開きとしました。

出席者の間から、早く同窓会員の中から叙勲される人物が出る様になればとの声も……。

御 礼

樋口 泉

今春の叙勲の折に宮中にて勲二等瑞宝章を拝受しましたところ、同窓会から祝詞を賜り、かつ結構な記念の祝品を頂き、まことに有難度ございました。この欄をお借りしまして会員諸君に厚く御礼申上ます。

長谷川正道君

の思い出

E2 吉田昌弘

「ハセ(長谷川正道君)がいつか来たぞ」この知らせが届いたのは、8月5日の午後であった。会社のバスケットの先輩からの電話である。この電話の意味することは「まさか」かと思ったが、信じ難い気持ちを打ち消す思いで、「どこへ行ったんだ」かと言ってしまった。

「遠くへ逝ってしまったんだ」この一言で淡い期待も空しく、次の言葉がしばらく出なかった。

彼とは沼津高専での5年間を勉学に、そしてバスケットボールを通して共に過ごし、会社に入ってから早や13年間、同じ工場で働き、バスケットもずっと続けてきた。今までの人生の半分以上を彼と付き合ってきたが、「信じられない」「こんなことがあっていいのか」という気持である。

この日からわずか3週間程前のことである。彼が腰痛で入院したということで、病院へ様子を見に行つた。今

までの彼を知るものにとっては想像のできない現実がそこにあった。「タフなやつ、人に決して弱みを見せないやつ」そんな彼がベッドの上で、背中と腰が痛いと言って苦しんでいた。私の顔を見るなり、「痛くてダメダメ」と弱音を吐いた。

「元気を出せ」と励ましなが、更に一週間後に会った時は、痛さを堪えて元気そうに見せてくれたが……。それから一週間後に会いに行こうとしていた矢先の悲報であった。こんなにあっけなく逝ってしまうとは思ってもみなかった。内心、入院生活が長引きそうだと予想はしていたが、数ヶ月後には直ると信じていたからである。

彼との出会いは沼津高専に入った時である。私に「おいバスケをやらなにか」がきっかけであった。彼が高専に入り三ツ井先生という良き師とのコンビで、バスケ部の基礎ができ、彼を除いてはほとんど未経験者の集りのチームが、彼に引張られて年々力をつけていった。合宿練習において全員がクタクタに疲れている時でも、彼だけはまだまだといった顔をしていた。岐阜で行った東海北陸大会の福井高専との試合の時、5人を相手に彼一人でバスケ、シュートを連続し、味方の他の4人もボールに触れないという事があった。この時のスコアは、ほぼ150対30位であったと思う。又、試合終了間際、彼のあざやかなロングパスにより逆転勝利という光景も昨日のこのように思い出される。

会社に入ってからバスケを続け、日電府中に長谷川ありの名声を高めた。やはりここでも、一点差で負けているゲームで、残り3秒でのバスケと逆転シュート。残り30秒での3点差の逆転等、きわどい勝利にはいつも彼のプレイが絡んでいた。

彼の才能は仕事の面でも如何なく発揮された。今や世の中に、なくてはならないものとなったコンピュータの開発設計を続々と行い、会社の中では非常に重要な役割を果していた。

最近も数年がかりでスタートした製品開発が、あとわずかのところまで来ていた。したがって毎日が非常に忙しく疲労も重なっていたと思う。

家庭では三人の娘の良きパパであり、又奥さん思いのやさしい男であった。時々バスケの試合に娘を連れて来てかわいがっていたが、告別式の日、その娘たちの涙、奥さんの悲しみの涙には語り尽せないものがあった。

彼のことを考えると、18年間の付き合いの中でのいろいろな場面が走馬燈のように思い出される。彼にはこれまでいろいろ教えられたし、今後も期待していた。私の人生にとって、かけがえのない良き友をなくしたことはとても悲しいことである。

最後に彼の冥福を祈ると共に、今後残された家族の健

やかに、そして可愛い娘たちが元気に成長されることを祈ります。

朝羽孝司君の思い出

C5 塩川 広

さる6月29日早朝、C5の朝羽孝司君が交通事故で亡くなりました。

高専入学の日、104教室の廊下側一番前の出席番号1番の席で、後ろを見ながらニコニコしていた朝羽君、中学時代、雑誌の付録の純愛小説に出てきた、ちょっと粗削りだけれど、頭が良くスポーツマン、常に女生徒のあこがれの的、そんな主人公のイメージにピッタリだというのが、私の彼に対する第一印象でした。その後5年間、出席番号1番の大役を務めあげた彼は、実際、誰にでも好かれる明るい性格のスポーツマンでした。

卒業後は静岡の大和製織に入りました。その後、彼に会ったのは、化学科村松教官退官謝恩会の時。久しぶりに会った仲間と夜の三島の街に繰り出した二次会で、仕事が非常にきつい事、通勤の電車の中でうっかり寝過ごし、気がついたら東京だったというような話を、おもしろおかしく聞かせてくれたのですが……。

6月29日早朝、藤枝の自宅へ帰る途中、交通事故に遭い、帰らぬ人となってしまいました。ここに深く、朝羽孝司君の御冥福をお祈りいたします。

「故深沢技官遺児

教育資金」募金御礼

前事務長 小川 吉 晴

同窓会だより第7号の慶弔報告に記載しましたように機械工学科の深沢稔技官は、去る昭和54年10月17日に永眠されました。

母校においては、残された御遺族のために、校長ならびに教官が発起人となって「故深沢氏遺児教育資金」を募り、同窓会においても、同窓会だよりの紙面を通じて会員からの募金をお願いしていました。

これに対し、多数の会員の方々の御好意により下記金額が集まりました。集まったお金は遺児教育資金として御遺族にお渡ししました。ここに報告するとともに、会員の皆様の御協力に対しお礼申し上げます。

応募人員 35名
金 額 58,000円

編集後記

●本誌の中に「同窓会キチガイが同窓会の強力な推進役となっている」を言う文章がありますが、そのキチガイの心情を会員諸兄に誤解されない様、弁明したいと思います。

皆さん、現在の同窓会の推進役となっている役員の中に「好き」で活動している人が、一人でもいると思いますか。

会社を終わってから、或いは残業してから、母校へ集まり、楽しくもない業務の為に夜遅くまで何時間も費す事を喜んでやっている人がいると思いますか。それも全くの無報酬どころか持ち出しまでして、では何の為に辛抱しているのでしょうか。

我々の同窓会は他の高専と比較して活動が活発であると言われていますが、その実際は三役と三役経験者それに数人の協力的な(熱心な、ではない)理事で支えられていると言っても言い過ぎではないのです。

現在の三役は仕事が非常に繁雑で大変です。与えられた責任感だけで踏張っているのです。この苦勞を経験した。或いは理解できる人は「現在の同窓会をつぶさない」為に、協力しなければと思って辛抱しているのです。誰か交代してくれ、と言っても引き受け手がないので頭張らざるをえないのです。この心情が理解できる人はもっと協力して下さい。

●今回のテーマは「自分の仕事について」でした。できるだけ多くの方々に書いていただきましたが連絡の不備等もございまして、なかなか思うように原稿が集まりませんでした。でも、そのテーマに関連しました職場だより等その他の原稿の集まりが良く無事発行にこぎつけることができました。これも理事をはじめとする同窓生並びに教職員の暖かい御協力のおかげであると思います。この紙面を借りまして寄稿して下さいの方、並びにお手数をかけた方々にお礼申し上げます。

なお本誌の内容、あるいは今後の会誌発行についての御意見等ございましたら、同窓会事務局までお寄せ下さい。

編集委員長 坂井 徳 尚
編集委員一同

会費未納者へのお願い

みなさま、御存知のことと思いますが、同窓会は、会員の終身会費によって運営されています。現在、財政が逼迫しており、近い将来運営に支障をきたしかねない状況です。事務局といたしましても、会誌等、刊行物発送の際に振替用紙を同封し、お願いしておりますが、未だ未納者がいるのは残念です。同窓会のスムーズな運営の為にも、是非納入して下さいます。

終身会費 10,000円

送り先 沼津工業高等専門学校同窓会
〒410 沼津市大岡3600
TEL <0559> 21 - 2700
郵便振替口座 東京2-102151

同窓会誌 第9号

昭和55年10月20日 発行

発行責任者 仁科 和 晴
発行所 沼津工業高等専門学校同窓会
〒410 沼津市大岡3600
TEL <0559> 21 - 2700
郵便振替口座 東京2-102151

印刷所 ジャパンコミュニケーション
〒410 沼津市東熊堂650
マルトモVS3F
TEL <0559> 23 - 0123